



2025年度  
日本語・日本文化研修留学生  
研究レポート集

2025年9月  
国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター

## － 目 次 －

### 【日本語・日本文化研修留学生】

- 『コーヒーが冷めないうちに』における共感覚法比喩表現についての考察  
カルレン・フェリシア：ビヌス大学
  
- 武士の精神  
シャリツカヤ・アナスタシア：ベラルーシ国立大学
  
- 生け花 ー日越文化の架け橋ー  
グエン・テイ・ハイ・ハー：ハノイ大学
  
- ラオスと日本の文化比較 ーピーマイラオとお正月、ブン・カオサラックと盆、ブン・バンファイと龍勢祭りの類似点と相違点を中心にー  
ポムビジット・サイコーン：サワンナケート大学
  
- 若者の会話におけるメタファー 表現の利用実態に関する考察と教育への応用  
ー和歌山大学の日本人学生と留学生を中心にー  
ダン・タイン・ロン：ホーチミン市師範大学
  
- 『また同じ夢を見ていた』ー直喩表現における主人公の人生観ー  
ランガジュノアジクレスワント：ブラウイジャヤ大学
  
- 専門用語としての「やさしい日本語」の認知・理解・使用の難しさに関する比較調査 ー日本人と日本語学習者の視点から ー  
トーンレックウィパーウィー：カセサート大学

2025年8月7日提出  
日本語日本文化研究Ⅱ（2025年後期木曜4限）

『コーヒーが冷めないうちに』  
における共感覚法比喩表現について  
の考察

日本語・日本文化研修留学生  
出身大学の大学名：BINUS UNIVERSITY  
学籍番号：C2410010  
氏名：カルレン フェリシア

## 目次

1. はじめに .....	- 1 -
2. 研究方法 .....	- 1 -
3. 共感覚と原感覚 .....	- 2 -
4. 意味論 .....	- 3 -
5. データの分析 .....	- 3 -
5.1 触覚→味覚の共感的な比喻表現 .....	- 4 -
5.2 触覚→視覚の共感的な比喻表現 .....	- 4 -
5.3 触覚→聴覚の共感的な比喻表現 .....	- 5 -
5.4 味覚→臭覚の共感的な比喻表現 .....	- 6 -
5.5 味覚→視覚の共感的な比喻表現 .....	- 6 -
5.6 視覚→聴覚の共感的な比喻表現 .....	- 7 -
6. 結論 .....	- 8 -
参考文献 .....	- 9 -

## 1. はじめに

文学は、言語を用いて表す芸術作品として見られ、様々な種類があると言われている。また、文学とは、人間の想像力、感情、そして人生観といった要素を表現し、魅力的な文章として形にしたものである。文学作品を通じて、人は自由に創造し、自らの創造性を発揮する機会を得る。文学のジャンルは詩歌、随筆、日記、和歌、俳句、歌舞伎、小説などである。中でも、小説には比喩表現が多く見られるといえよう。

牧野誠一と岡あゆみ（2017）によると、比喩とは、抽象的な概念や理解しにくい言葉の組み合わせを理解するための表現である（P:4-5）。比喩表現の中で様々な種類があり、その中で共感覚という比喩表現がある。共感覚比喩表現とは、人間の五感を使い、ある感覚を別の感覚に置き換えて表現する比喩的な表現方法である。

現在、日本文化や日本語における比喩表現の研究が急速に進展している。しかし、共感覚的な表現における研究は十分とは言えない。そこで、本研究では川口俊和の小説『コーヒーが冷めないうちに』における共感覚的な表現について考察する。また、共感覚と原感覚との関係性を明らかにするとともに、文脈に即して共感覚的表現から生まれる意味についても考えてみたい。

小説『コーヒーが冷めないうちに』は、川口俊和が、自身の同名戯曲を2015年に小説化したものである。本研究では、株式会社サンマーク出版の2024年版をデータとして用い、そこに現れている共感覚法を取り上げ、それがどの種類の共感覚法に分類されるかを分析し、その共感覚法の意味を考察する。

分析方法は山梨正明（1988）の共感覚と原感覚の手法を用いて、分析する。分析した例文に見られる単語がどのように意味の変化をもたらしたのか意味論を用いて解釈する。

## 2. 研究方法

本研究は質的研究である。John W. Creswell（2016）によると、質的研究とは、個人や集団が社会的、また人間的な問題にどのような意味を探索と理解するための研究方法である。質的研究には、数値的なデータではなく、主にインタビュー、考察、または文章分析を通じてデータを収集する。また、データの収集は Sugiyono（2019）による文献調査の方法論に基づき、対象資料から共感覚表現を収集した。Sugiyonoによると文献研究は、理論的な考察、学術的な文献、および研究に関連する参考資料を対象とした検討であると定義されている。

本研究では、次のような方法を用いた。

1. 小説『コーヒーが冷めないうちに』を精読する。
2. 小説の中から共感覚表現を用いた表現を取り出す。
3. 取り出した文章の中の共感覚が文脈の中でどのような意味を表すのかを考察する。
4. 全体をまとめ、得られた結果を考察する。

### 3. 共感覚と原感覚

瀬戸賢一（2002）によれば、比喩表現は「レトリック」とも呼ばれ、その定義は「あらゆる話題に対して魅力的な言葉で人を説得する技術体系」である（p.5）。瀬戸は、比喩表現にはさまざまな種類があり、その中でも、意味の転換が生じるという形で現れる比喩として、共感覚法が存在すると述べている。

共感覚法とは、五感のうちの一つの感覚を別の感覚に置き換えて表現する比喩的技法であると一般に理解されている。この技法の定義には一貫性が見られず、研究者によってその捉え方は大きく異なる。共感覚法に関しては、主に「比喩的表現」として扱う立場と、「意味の変容」を伴う表現として捉える立場の二つが存在しており、それぞれの定義が交錯することで、理論的な曖昧さを生んでいる。ところが、「比喩的表現」や「意味の変化」としての共感覚の定義には、一定の共通性も見られる。

このような共感覚的比喩の理解においては、「感覚」との関わりが重要な要素となる。感覚の分類やその捉え方については、山梨正明(1988)の指摘が参考になる。山梨正明(1988:57)によると、比喩表現の中で触覚、味覚、嗅覚、視覚、聴覚の五感に関わる表現は共感覚に該当するとされている。山梨は、他の感覚の経験を描写するための知覚の基盤として、「原感覚（げんかんかく）」、すなわち一次的感覚や基本的な感覚という概念を用いていると述べている。以下は、山梨(1988:59)による共感覚と原感覚の説明である：

- a. 触覚は、味覚、臭覚、視覚、聴覚のいずれでも原感覚に対しても共感覚として可能性がある。
- b. 味覚は、臭覚、視覚、聴覚のいずれでも原感覚に対しても共感覚として可能性があるが、触覚には不可能だ。
- c. 臭覚は、視覚、聴覚のいずれでも原感覚に対しても共感覚として可能性があるが、触覚と味覚の共感覚には不可能だ。
- d. 視覚は、聴覚の共感覚と可能性があるが、他の感覚の共感覚とは不可能だ。
- e. 聴覚は、他の感覚の共感覚は不可能だ。

こうした説明を通じて、山梨(1988)は共感覚の組み合わせが10種類あると述べている(P.58)：  
触覚を出発点とする共感覚の組み合わせ

- a. 触覚→味覚：やわらかな味、なめらかな味
- b. 触覚→嗅覚：さすような香り、つくような臭い
- c. 触覚→視覚：あたたかな色、つめたい色
- d. 触覚→聴覚：なめらかな音、あらい音

味覚を出発点とする共感覚の組み合わせ

- a. 味覚→嗅覚：あまい香り、あまづっぱい臭い
- b. 味覚→視覚：(%) あまい色調、(%) あまい柄
- c. 味覚→聴覚：あまったるい音調、あまい声

嗅覚を出発点とする共感覚の組み合わせ

- a. 嗅覚→視覚：(%) かぐわしい色調・色彩
- b. 嗅覚→聴覚：(%) かぐわしい音調・音色

視覚を出発点とする共感覚の組み合わせ

- a. 視覚→聴覚：あかるい声、くらい音調

山梨正明 (1988) は、五感にもとづく共感覚の表現について「言葉の進化の過程を経て、かなり慣用化された表現となっている。そこには隠喩的な修辞性は意識されない。この点で、この種の五感にもとづく共感覚の叙述は、死喩の一種といえる」と述べている (p. 153)。

また、Chaer (2014、著者訳)によれば、意味は進化を通じて変化する。意味が変化するためには、いくつかの要因が存在し、たとえば科学技術の分野における発展、社会文化の変化、語の使用の変遷、共感覚的反応の交差、そして連想の働きなどが挙げられる。(P:310)

一方、秋元美晴 (2002)によれば、意味変化の方向性には様々な原因で、意味が変化する。共感覚は意味変化の方向性があると言う。共感覚は、異なる感覚がお互いに対応している。例を挙げると、「渋い色」には味覚と視覚の感覚、可能な共感覚として言われる。(P:152)

#### 4. 意味論

言語学の中では、意味を研究する学問は意味論と呼ばれる。Amili F & Anggraeni (2019、P:3)によれば、意味論とは意味や意義に関する学問を扱うものである。

原沢伊都大 (2016)によれば、語の意味の定義には辞書による意味、成分分析、語の意義素のみの方法がある (P:153-156)。辞書による意味とは、類義語や同義語を用いて語を説明する方法であり、成分分析は語の意味を小さな要素に分けて分析する方法である。さらに語の意義素による意味解釈は、文法的特徴、語義的特徴、含蓄的特徴の三点から捉えられる

語の意味関係は、語の意味を他の語との関係から捉えるものであり、その方法には同義関係、反義関係、包摂関係がある (pp. 158-162)。さらに句の意味は、ある語が他の語と結びつくことで新しい意味を生じるもので、連語と慣用語の二種類に分類される (p. 165)。

原沢の文の意味の定義は、文章の中で表している意味である。その意味とは、命題、前提と合意から意味を表している。命題とは主文を構成する各語の意味に基づいて成り立つ直訳的な意味と述べている。また、前提とは主文の成立の前提となる意味であり、主文否定しても、否定されない様子であると述べている。さらに合意とは主文が成立することで生まれる意味であり、主文を否定すると、同時に否定されると述べている。

#### 5. データの分析

本研究で使用するデータは、小説『コーヒーが冷めないうちに』に登場する共感覚を含む文章である。本作は、喫茶店「フニクリフニクラ」を舞台に、特定の席に座ると過去に戻れるという噂があり、それを中心に展開していく物語である。その噂を耳にした人々が、それぞれの事情を抱えながら過去に戻り、会いたかった人と再会を果たす姿が描かれている。ただし、過去に戻るためにはいくつかルールが存在する。本研究では、この物語に基づいて共感覚に関する表現を抽出し、分析の対象とする。

本研究で取り上げた作品では、山梨正明(1988)が述べた10種類の共感覚のうち、以下の6つの種類が見られた。

No.	共感覚的の比喩表現の種類 (共感覚→原感覚)	表現
1	触覚→味覚	1

2	触覚→視覚	7
3	触覚→聴覚	2
4	味覚→臭覚	1
5	味覚→視覚	1
6	視覚→聴覚	10
全体の表現の数		22

### 5.1 触覚→味覚の共感的な比喻表現

#### 例文 1

高竹は、「七幸」を一口飲んだ。優しい甘みが口いっぱい広がった。

『コーヒーが冷めないうちに：126』

#### <解説例>

この文章にある「優しい甘み」は、味覚の原感覚である「甘み」に、触覚的・感情的な形容詞である「優しい」を結びつけており、共感的な比喻表現となっている。日本語の「やさしい」という語は、人間の感情に関わる触覚的な語とも分類でき、「優しさ」や「穏やかさ」といった意味合いをも含んでいる。一方、「甘み」は味覚に属し、人間の味覚を通して知覚される「甘さ」を表す。興味深いことに、「やさしい」という語を用いた共感的な表現では、本来「やわらかい触感」を表すこの語が意味の変化を遂げ、「甘み」の一次的な感覚を主な意味とするようになった。

この表現は、「七幸（ななこう）」という日本酒を飲む登場人物の「高竹（こうたけ）」を描写する際に用いられている。文脈から、「高竹」が感じた「甘さ」は「やさしく口の中に広がる」ものであり、「七幸」が独特で繊細な風味を持つ酒であると考えられる。この文は、「七幸」の甘みが強すぎず控えめでありながら、心地よく広がる特徴的な感覚を与える、味わい深い酒であることが考えられる。

### 5.2 触覚→視覚の共感的な比喻表現

#### 例文 2

数は、何事もなかったように涼しい顔で仕事を続けた。

『コーヒーが冷めないうちに：110』

#### <解説例>

この「涼しい顔」という表現は、視覚の原感覚「顔」に、触覚的な形容詞である「涼しい」を結び付けており、共感覚比喻表現になった。ここでの「涼しい顔」という表現は、実際に顔が冷たいという意味ではなく、落ち着いていて、余裕のある様子を表している。文脈から、「涼しい顔」とは、さりげなく、穏やかで落ち着いた表情を示していると考えられる。これは、顔が視覚で捉えられるものであるため、触覚の「涼しい」という感覚が結びつくことで、意味が移動している現象である。「涼しい」が持つさわやかさのイメージが、顔の視覚的なイメージに重なっている。

この前のぶんは、数という人物が作業中に、記憶喪失の症状がある客さんに話しかけられた。その客は、数は動揺せず、「涼しい顔」で接客を続けている様子が見られる。つまり、感情を表に出さずに、落ち着いて仕事をしていることを表していると考えられる。この表現は、数の冷静で落ち着いた態度を示していると考えられる。

### 例文 3

どっしりとした柱や、天井で交差する自然木の梁（はり）、栗の皮のような光沢のある深い茶色で、大きな柱時計が三つ。

『コーヒーが冷めないうちに：124』

#### <解説例>

この「深い茶色」という表現は、触覚の原感覚である「深い」に、視覚的・感情的な名詞である「茶色」を結びつけており、共感覚的な比喻表現となっている。これは、「深い」が本来は空間的な奥行きを表す触覚的イメージを持つ語であるため、そこに視覚的な「茶色」という感覚が結びつくことで、意味が移動している現象である。「深い」にはもともと空間的な奥行きを説明するイメージがあるが、「深い茶色」の場合は色の濃さを表す視覚的なイメージへと重なっていると考えられる。

文脈から見ると、この表現は店の雰囲気についての説明的な感覚を与えている。その雰囲気は、店の天井にある木製ブロックの構造や、濃い茶色の時計によって表されている。この表現は、濃い茶色をした古い時計がかなり目立つ存在感を持っていることを示している。ここで用いられている「茶色」は、単なる一般的な茶色ではなく、非常に濃い茶色である。

### 5.3 触覚→聴覚の共感覚的な比喻表現

#### 例文 4

「平井さん！」

「飲めない！」

「約束…」計は、震える声で一言、一言、声に出した。

「したんでしょう？妹さんと…」

『コーヒーが冷めないうちに：258』

#### <解説例>

聴覚の原感覚である「声」に、触覚的・感情的な形容詞である「震える」と結び付けており、共感覚的な表現となっている。「震える」言葉は、は本来、視覚的に捉えられる「揺れ」や「振動」を表す語であり、視覚的な感覚と密接に結び付いている。一方、「声(koe)」は聴覚によって捉えられる感覚である。この表現においては、「震える」という語が本来もつ「揺れ」の意味から転じて、「震える声」というように、聴覚の対象である声を形容する用法へと意味が移動していると考えられる。

その物語の設定は、平井さんは、現実に戻るためにコーヒーを飲まなければならないが、妹と出会った後には飲みたくないという気持ちになった。平井さんを現実に戻すために、計は必死で、その言葉を言った。そのため、計の「震える声」は、怖がっている、悲しい気持ち、必死になっている様子を表していると考えられる。

## 例文 5

時間がないとはいえ、高竹は自分のうかつさを後悔した。房木はまだ怖い顔で睨んでいる。高竹は、にっこり房木に笑顔を向けると、「ごめん、ごめん、なんでもないよの。忘れて」と、軽い口調で言った。

『コーヒーが冷めないうちに：156』

### <解説例>

この表現では、聴覚の原感覚である「口調」に、触覚的・感情的な形容詞である「軽い」を結び付けており、共感覚的な比喩表現となっている。「軽い」は本来、物の重量や手触りなどを通して触覚的に感じ取られる感覚を表す語である。一方、「口調」は聴覚を通じて捉えられる声の調子を表す語であり、聴覚的感覚に属している。この表現においては、「軽い」が本来もつ物理的な軽さを説明する意味から転じて、「軽い口調」のように声の調子を形容する用法へと意味が移動している。

物語の設定によると、高竹は認知症である房木にある手紙について聞きたいことがあり、過去に戻った。房木は、冷たい性格で、いつも不機嫌に見える。高竹は、房木に手紙について聞く際に、房木は怖い顔をしていた。高竹の発言に怖い顔をしていた房木を安心させるために、高竹は「軽い口調」で謝っている。そのような「軽い口調」で謝るのは、高竹の言葉の気遣いや畏まる態度を見せていると考えられる。

## 5.4 味覚→臭覚の共感覚的な比喩表現

## 例文 6

高竹は、その甘い香りを楽しみながら、この喫茶店を初めて訪れた五年前の夏の日のことを思い出していた

『コーヒーが冷めないうちに：123』

### <解説例>

この表現は臭覚の原感覚「香り」に、味覚的・感情的な形容詞である「甘い」を結びつけており、共感覚的な比喩表現となっている。「香り」は、嗅覚を通じて捉えられる匂いや芳香を表す語であり、叙述の中で感覚的イメージを構築する役割を果たす。そこで、「甘い」は味覚的な甘さを説明する語であるが、この表現においては「甘い香り」のように、味覚的な形容詞が嗅覚の対象である匂いを修飾する用法へと意味が移動していると考えられる。

文脈から、高竹は、ある飲み物に心地よく甘さを感じただろうと思われる。また、その香りを嗅いでいる時には、ある記憶が蘇り、懐かしい感情を示していると考えられる。

## 5.5 味覚→視覚の共感覚的な比喩表現

## 例文 7

それじゃ、亡くなった妹さんも浮かばれないんじゃない？と、喉までデカかったのだろう、苦々しい顔で口を噤んでいる

『コーヒーが冷めないうちに：209』

### <解説例>

視覚の原感覚「顔」に、味覚的・感情的な形容詞である「苦い」を結びつけており、共感覚的な比喩表現となっている。「苦々しい」という言葉は、もともと「苦い」という味覚に由来し、味覚的な表現として分類される。一方、「顔」は視覚を通じて認識されるため、視覚的な感覚に属する。

この場面では、「苦々しい顔」という表現が、ある登場人物が話すのをためらっているときに使われている。この表現から、その人物が何かを言いたそうにしているが、最終的には言葉を飲み込んでしまったことがわかる。つまり、文脈によれば、顔が苦い味をしているのではなく、言いたいことが言えなかったから不満な顔をしていると思われる。また、「苦々しい」という味覚的な表現が、感情的な負担や葛藤を含んだ表情を表す意味へと変化しており、そこに共感覚的な意味の広がりが見られる。

## 5.6 視覚→聴覚の共感覚的な比喩表現

### 例文 8

平井の思いは、長い沈黙の後、迷いに迷ったあげく、たった一言のつぶやきになった。

「ありがとう…」

『コーヒーが冷めないうちに：254』

### <解説例>

「長い沈黙」という表現において、「沈黙」は聴覚の原感覚であり、視覚的な共感覚「長い」と結び付けており、共感覚的な表現として考えられる。「長い」は、視覚を通して捉えられる大きさや長さといった尺度を説明する語であるが、ここでは聴覚的に捉えられる「沈黙」と結び付けられている。その結果、「長い」は物理的な長さを表す意味から転じて、「長い沈黙」のように沈黙の時間的持続を説明する用法へと意味が移動していると考えられる。

この文の前は、平井という人物は、過去に戻り、妹と出会った。平井は、言葉を出ないぐらい妹に何を伝えた方が良くと思い込んだ。文脈によれば、「長い沈黙」とは長い間何かを深く考えており、言葉も出でこないと思われる。また、その「長い沈黙」の結果、平井は一言、「ありがとう…」だけを言ったと考えられる。

### 例文 9

店内に三つある古い柱時計の一つがボンボンと五回、低い音で鳴った。

『コーヒーが冷めないうちに 2022:37』

### <解説例>

「低い音」という表現において、「低い」は視覚的な共感覚を表し、「音」は聴覚的な原感覚と考えられる。「低い」は本来、物の高さを測る際に用いられる視覚的な感覚を表す言葉と考えられる。「声」は聴覚を通じて捉えられる感覚である。この表現においては、「低い」が本来の物理的な高さを説明する意味から転じて、「低い声」のように声の高さを表す用法へと意味が移動していると考えられる。

物語の設定は、二美子という人物は過去から現実に戻ってきた。その時、トイレから戻ってきた霊が、いつも自分が座っている席に二美子が座っているのを見て、少し怒りを覚え、二美子に「どいて」と命じたと見られる。文脈から、「低い音」とは単に時間の流れを示すものではないだろう。この表現は、柱時計の音の古さだけでなく、店内に時間の流れがゆったりとしていることや、客があまりいないためにその音がひととき目立つ存在になっていることが読み取れる。

## 6. 結論

本研究では、川口俊和の小説『コーヒーが冷めないうちに』における共感的な比喻表現について検討した。本研究で取り上げた作品では、10種類の共感覚のうち、6つの種類が見られた。その共感的な比喻表現のそれぞれの意味は、文章によって意味を解釈できるものであった。また、その意味は文脈によって変化する様子が見られた。つまり、共感的な比喻表現を使うと、文脈が分かりやすくなる。そうすることで、物語の情景が想像しやすくなるため、多くの読者を魅了する。だから、このような共感的な比喻表現は文学の中に必要だろう。

今後の研究では、新たなタイプの共感的表現の存在や、共感的であるかどうかの判断が難しい表現について検討することも考えられる。たとえば、共感覚の分類には当てはまらないが、感覚の重なりを感じさせるような表現をどのように捉えるかといった課題もある。そのような曖昧な表現の分析を通して、共感的な比喻の境界や機能について、より深く理解することができるだろう。

## 参考文献

- 1) Amilia, F & Anggraeni, A. W (2019) 『Semantik: konsep dan contoh analisis』 Pustaka Abadi
- 2) Chaer, A (2014) 『Linguistik Umum』 Penerbit RINEKA CIPTA
- 3) Creswell, J. W., & Poth, C. N. (2016) 『*Qualitative inquiry and research design: Choosing among five approaches*』 Sage publications.
- 4) スタディサプリ進路「日本文学とはどんな学問？研究内容や学び方などを解説」  
[https://shingakunet.com/gakumon/e1050/L00001\\_M00007\\_S00113/](https://shingakunet.com/gakumon/e1050/L00001_M00007_S00113/) (参照2025年2月2日)
- 5) 原沢伊都夫(2016) 『日本語教師のための入門言語学・演習と解説』 ツリーエーネットワーク
- 6) 川口俊和 (2024) 『コーヒーが冷めないうちに』 株式会社サンマーク出版
- 7) Richard, J, Platt, J, & Weber, H, (1985) 『Longman dictionary of applied linguistics』 *Hongkong: Longman Group Ltd, 284.*
- 8) 山梨正明 (1988) 『比喩表現と理解』 東京大学出版会.57-61
- 9) 瀬戸賢一 (2002) 『日本語のレトリック』 岩波書店
- 10) Sugiyono (2019) 『Metode Penelitian Kualitatif, Kuantitatif, dan R&D』 Bandung: Alfabeta
- 11) 牧野成一と岡まゆみ (2017) 『日英共通メタファー辞典』 くろしお出版

2025年8月4日提出  
日本語・日本文化研究 A (2025 年前期木曜 4 限)  
長友文子先生

# 武士の精神

日本語・日本文化研修留学生  
大学名：ベラルーシ国立大学  
学籍番号：C2410016  
氏名：シャリツカヤ・アナスタシア

# 目 次

1.はじめに .....	- 1 -
2. 武士の精神 .....	- 1 -
2-1. 「武士道」という価値基準の定義と説明.....	- 1 -
2-2. 「武士道」の原則と要件 .....	- 2 -
3. 武士の死に対する特別な態度 .....	- 4 -
4. 終わりに .....	- 5 -
参考文献.....	- 6 -

## 1. はじめに

本レポートでは、「武士道」という不文律に基づいて武士の精神を研究する。武士道とは、日本の近世以降の封建社会における武士階級の倫理・道徳規範及び価値基準の根本をなす、体系化された思想一般をさし、広義には日本独自の常識的な考え方を指す。ただし、武士道は不文律なので、明確な定義は無く、時代のほか、身分や地域によってもその解釈は大きく異なる。

また、本レポートでは、「武士道」の原則や要件と武士の精神についても研究する。身分や生き方に関係なく、すべての武士は勇者になるという高い目標に向かって努力した。それを達成するための長く、危険な道は、「武士道」という特別な言葉で示された。「武士道」とは、武士が生きるための基本的な道徳律であった。

「武士道」は社会における武士の振る舞いを定義し、武士の真の理想を示す規範を含んでいた。しかし、「武士道」は、武士階級の特殊な世界観の定式化として機能したと考えられている。

このテーマを選んだ理由は、武士の精神が人類の歴史において特異な現象だからである。千年以上にわたって存在した武士階級の影響力は非常に大きく、それなくしては歴史や伝統文化だけでなく、現代の日本人の生活のあらゆる面を理解することは不可能である。武士の精神の中で一番大切なのは『武士道』という不文律である。『武士道』は、武士階級のイデオロギーの形成と武士像の確立に決定的な影響を与えたからである。その上、『武士道』の規定は、武士の精神の本質を最も的確に現している。

本レポートの目的は「武士道」という不文律を道徳的な基本とする武士の文化と武士の精神の特殊性を解説することである。研究の対象は、「武士道」に関する論文に示された文化的・道徳的価値観である。

資料源はロシア語、英語、日本語の書籍である。特に大道寺雄山の『武道初心集』と山本常朝の『葉隠』を研究の根拠とした。

次のような方法を用いて研究を行った。

- ① 文献調査
- ② 記述
- ③ 分析

① 文献調査とは様々な論文や書類を読んで、情報を求めることである。

② 記述とは武士の特徴や武士道に関する本で書かれた情報を紹介することである。

③分析とは武士に規定された資質を強調するために、武士に関する論文を使用することである。

## 2. 武士の精神

### 2-1. 「武士道」という価値基準の定義と説明

武士道は武士の精神の根底である。武士道とは、日本の近世以降の封建社会における武士階級の倫理・道徳規範及び価値基準の根本をなす、体系化された思想一般をさし、広義には日本独自の常識的な考え方を指す。武士道は、武士階級の特殊な世界観を形式したと

言えるだろう。当初は「馬と弓の道」という意味を持っていた。10世紀まで、武士階級という概念は存在しなかったため、武士階級の誕生の一步となった。「馬と弓の道」というのは、元々好戦的な農民たちは、馬に乗り、弓を使い、アイヌから国境を守った。そのため、武士道が現在のように呼ばれるようになったのは、武士階級が台頭してからのことである。

「武士道」という単語は3つの漢字で構成されており、詳しく分析すると、武士道がどのようなものであったかを最も正確に示していることが分かる。

山本常朝の『葉隠』によると、「武」という最初の漢字は「軍事的」または「戦士」という意味を持ち、その部首は「止める」という意味を持っていた。更に、より詳細な解釈では、「武」には「文」、つまり文学、書道、そしてより広い意味では武術以外のすべての技が含まれている。

2番目の漢字は、武士という戦士だけでなく、尊敬される男性のことを表している。そのことは武士に対する扱いを直接的に示している。

3つ目の漢字は「道」のことを指摘している。この漢字は、美学であり、軍事であり、ある芸術が通常の芸術を乗り越え、精神的に新たなレベルに達したことを示している。そのような活動に従事した人々は、それを人生の「道」とみなし、文字通りに生涯を捧げた。

武士道独特の道徳観が何らかの原則や規則の形をとるようになったのは、武士が独立した階級になってからである。何世紀にもわたり、武士は日本の歴史において指導的かつ最も強力な階級であり、社会の政治的・社会的領域を君臨した。武士階級の権威は長い間揺るぎないものであった。しかし、それにもかかわらず、「武士道」の原則は長い間具体的な規範や規則として形式されていなかった。封建時代の文学作品には、武士の規範は一つも記されていなかった。そのような不文律に関する情報は、古代の物語、伝説、説話の中のみ残されていた。

武士とその思想に直接関連する最初の文献は、江戸時代（1603年 — 1868年）になってようやく出てきた。最初の書物は、江戸時代の初代将軍である徳川家康の命令により出版された。この法典は『武家諸法度』と呼ばれていた。「武家諸法度」はすでに正式な法律として機能しており、その主な目的は幕府と大名の関係を規制し、社会や軍務における武士の行動規範と規則を定めることであった。

次の基本書は、大道寺雄山の『武道初心集』であり、初めて「武士道」の根本原理を最も分かりやすく示した。『武道初心集』に続き、山本常朝の『葉隠』が書かれた。『葉隠』は武士にとって聖典となった。

しかし、武士道の重要さにもかかわらず、武士道は行動を規律する方法の一つに過ぎなかった。道徳的な不文律であり、武士にこれらの規範を強制する特別な制度がなかった。武士道は、説得力、世論、道徳的な教育、そして伝統を根拠として機能していた。

## 2-2. 「武士道」の原則と要件

「武士道」には、武士が絶対に逆らえない様々な原則と規範が含まれていた。これらの原則は仏教、儒教、神道に基づいて形成され、徐々に発展し、宗教の教えに影響を受けながら変化していた。

山本常朝と大道寺雄山の本に基づいて、武士の最も基本的な要件としていくつか挙げられる。それは大名への忠実、あらゆることにおける節制と質素さ、物質的なもの、特にお金への無関心、そして私利私欲の否定である。武士は戦士としての義務に加え、真面目さ、

無私に至る勇敢さ、そして礼儀正しさも非常に重要であった。その上、武士は死に対する特別な態度を持っていた。武士は死を当然のこと、当たり前のこととして受け入れなければならなかった。

武士道によると、武士の主な性格の特徴は大名へ忠実と奉仕だった。個人的な希望と望みは後回しになってしまった。それは武士の義務の一つであり、すなわち忠実の原則だった。忠実は、主に儒教の教えに由来しており、そのため「大名と家臣」の関係は「父子」の関係になってきた。武士は大名のことを父とみなし、大名の命令に文句を言わず従う義務を持っていた。更に、忠実の概念の形成は神道に影響も受けた。神道は武士の思想において一族であった家族への忠実、そして年長者への尊敬の思想を広めた。

山本常朝の『葉隠』はその結論をよく裏付けている。

『葉隠』によると、毎朝、まず大名と両親に頭を下げ、次に守護神と仏様に頭を下げる。大名を第一にすれば、両親は喜び、神様も仏様も喜ぶだろうという。つまり、武士にとって、大名のこと以外何も考えることはない。一度このことを心に刻めば、大名のことだけを考え、一瞬たりともご主人から離れることはない。

大名への忠実に関係があるもう一つの重要な概念は、大名への義務である。大名と家臣の関係は、「恩」と「義理」という二つの主要な原則に基づいた。「恩」とは、自分よりもはるかに高い地位にある人々への深い感謝の気持ちのことを指す。「恩」の原則には、神々、大名、師匠、両親など、もらった善行に対する感謝の気持ちがある。武士にとって、大名へのこのような態度は重要だった。

「義理」とは、武士が大名に対して負う道徳的な義務であり、そして社会において武士が従わなければならない行動規範を指す。もともとこの概念は目上の人を尊敬するという意味しか持っていなかったが、時間が経ち、大名と武士の関係にも広がった。義務の力は非常に強く、「義理」という言葉は、武士が自らの命だけでなく、子供と奥さんの命も犠牲にすることを意味するようになった。武士は義理と感情のどちらかを選んだとき、常に義理が優先された。

大道寺雄山の『武道初心集』によると、武士は模範的な息子であるだけでなく、忠臣でなければならない。たとえ家臣が百人から十人に、あるいは十人から一人に減っても、大名絶対にを見捨てることはない。戦争においては、武士の忠実な戦場で恐れを知らずに戦い、義務のために命を捧げることである。

武士が教え込んだもう一つの重要な原則は名誉である。武士は自らの尊厳を尊敬し、いかなる手段を用いても「名誉」を守ろうとする。なぜなら、恥じに汚されることは武士にとって重荷だったからである。不名誉な武士は、自らだけでなく一族全体の名誉を汚され、社会から厳しく批判されていた。

武士は名誉に加え、慎み深く礼儀正しく振る舞うことが求められた。慎み深さの原則は、武士が大名の家臣として従属的な立場にあったことから生じた。武士は大名の前で頭を上げてはいけなかった。

『武道初心集』では、「鷹は飢えて死にそうでも、捨てられた穀物を拾い上げない。同様に、武士も何も食べていないのに楊枝を持って満腹であること見せねばならず」と指摘されている。

武士は職務に加え、人間的な資質も持たなければならなかった。例えば、慈悲、そして

弱者への寛大さなどである。

『武道初心集』では、「忠、義、勇は武士の三徳なり」と述べられている。

しかし、武士階級が武器、軍事、そして大名への奉仕にのみ専念していたわけではない。武士には軍事的な資質に加え、芸術への興味も植え付けられていた。武士は書道、茶道、生け花、詩歌などにより、精神力を養い、美意識を満たす活動を行った。後に、武士にとって軍事以外の技能は、困難な状況において助けとなった。何らかの理由で地位を失ったとしても、将来、これらの活動のいずれかで新たな人生を始める機会が与えられたのである。

『武道初心集』によると、力のみを持つ者は武士の称号に値しない。武士は学問を学ぶ必要があるのは言うまでもなく、余暇には詩歌を読み、茶道を修めなければならなかったという。

武士に求められた理念に基づいて、武士はただ武術を習得し戦場で戦うだけでなく、高い精神性を持つ人間となることを目指していたという。武士階級は、戦闘だけでなく、高い道徳性を持つ人間性を身につけることにも重点を置いた、独自のイデオロギーを体現していた。

### 3. 武士の死に対する特別な態度

武士の死に対する態度は、幼い頃から「武士道」の伝統的な教えによって教えられた。武士の死に方は特別だった。武士は「一瞬を生きる」という規則に従った。

しかし、これは東南アジアの人口だけに限られたことではなかった。「一瞬を生きる」という考え方は、道教・仏教の世界観にとって自然なものであったと言えるだろう。「武士道」の原則は道教と仏教の教えに基づいたからである。

したがって、この伝統的な体系の中で一番重要なことは、人間の命は輪廻の大きな連鎖の中に小さな物として定義されたことである。昔から、お坊さんにとって自分の命は無価値なものであった。お坊さんはそれを、再生、つまり永遠の存在への道筋に過ぎないとみなしていた。そのため、彼らは現世に執着しないようにした。それはただの人間にとって最高の価値ではなかったからである。このものの見方は武士にも教えられた。

武士は常に死について考えていた。武士は幼い頃から死ぬために、覚悟を決めていた。時が経つにつれ、武士は自分がどのように、そしていつ死ぬのかを既に想像できたのである。

しかし、武士にとっては正しい、「真」の方法で死ななければならなかった。戦いの最中に大名のために命を捧げるだけでは十分ではなかった。真の価値は、武士が死を徐々に受け入れることであった。そのために精神を鍛え、長年の厳しい訓練を通して精神が達成された。

死を達成するために、「武士道」は主要な役割を果たした。その目的は、戦士を絶対的に恐れ知らずにし、死への恐怖という概念に集中することをやめさせ、戦闘における効率を高めることだった。結局のところ、死への恐怖を全く持たず、それを名誉の問題として捉える戦士は、生まれながらの恐怖と戦う戦士よりも、戦闘においてあらゆる点で優位に立つと信じられていた。

「真」の死を達成する方法がいくつか挙げられる。将来の武士は上杉謙信、宮本武蔵をはじめとする勇気を持っていた有名な武士の功績についての物語が教えられた。しかし、

それは物語や伝説だけにとどまらなかった。なぜなら、死を受け入れるまでのプロセスの一つは、隣人の死を知覚することだった。武士は処刑、拷問、自然死など、死の兆候を自分の目で見なければならなかった。戦いの後には、倒した敵の首を集めて観察することさえ一般的だった。これは武士が死についての考えを受け入れるのに役に立つと信じられていた。

また、武士はどんな状況でも冷静さを保つように訓練されていた。たとえ何千もの槍に突き刺されても、表情を変えるべきではなかった。生きているうちに勇敢な戦士のイメージにふさわしい武士は、めったに感情を表に出さず、微笑むことさえなかった。しかし、時が来たとき、武士はこの世で義務を果たしたことを喜び、かすかな笑みを浮かべながら最後の章に至った。

更に、その本質は死への憎しみではなく、死に対する冷静で無関心な態度、つまり死を自然に受け入れるということである。武士は、無関心さえも植え付けられず、むしろ自己肯定の手段として死への一種の愛着を植え付けられた。

武士の死に対する態度は、山本常朝の『葉隠』によく説明されている。

『葉隠』によると、毎朝と毎晩、死を覚悟し、まるで死んでいるかのように生きれば、真の武士になれる。そうすれば、生涯罪のない人生を送り、自分の分野で成功するだろうという。また、武士は毎日、差し迫った死について考えるべきである。毎日瞑想をするとき、矢、剣、槍によって体が引き裂かれること、荒々しい海流されること、火に投げ込まれること、地震で破壊されること、病気で亡くなること、あるいはもう亡くなった大名に尊敬を見せるため、腹切りをするということを想像しなければならない。毎日、例外なく、自分が死んだと考えるべきだという。

しかし、武士が魂のない操り人形となるわけではなかった。武士は自分の命だけでなく、他者の命も大切にしていた。だが、自分の命は優先ではなかった。大名への義理はさらに重要であった。そのため、自分の命は後回しになってしまった。

このような死には自分の役割を果たすのに新たな機会を与えた。それは、自分のためではなく、他者のために生きること、例えば、まず大名のために、そして次に家族や愛する人のために生きることであった。死の必然性という考えは、武士の精神を束縛から解放し、意志を中風させることもなく、人生を全く無意味にすることもなかった。むしろ、武士に特別な美学、魅力、美しさ、そしてそれぞれの瞬間の重要性を与えたのである。

#### 4. 終わりに

大道寺雄山の『武道初心集』と山本常朝の『葉隠』に基づいて、「武士道」という不文律の基本原則と要件を解説する研究を行った。「武士道」という規範は、武士階級の特殊な世界観を形式化したものであり、武士についてのイメージとして機能していたとも言える。

「武士道」によると、武士が絶対に逆らえない原則と要件は次の通りである。

- 大名への忠実と奉仕
- 大名への義務（恩と義理）
- 名誉
- 人間的な資質
- 芸術への興味

上記のように「武士道」に書かれている原則と要件が武士の精神の基礎となった。

「武士道」の根底にある原則の多くは、一見すると肯定的で正しく見える。なぜなら、大名への忠実は常に重んじられ、名誉は高潔で意志の強い人の資質であるからである。それは当然のことであるが、武士階級の道徳は武士階級のみを対象としており、武士階級に含まれない下層階級の人々に関係がなかった。武士だけが「武士道」の特権を使用することができたので、庶民にとっては大きなデメリットであった。

しかし、武士の最も興味深い点は、死に対する特別な態度である。このことがきっかけで、日本史の重要な部分である武士に興味を持つようになった。日本の武士はヨーロッパの戦士とは様々な点で異なっていることが気に入った。様々な点で異なっている点の一つに武士の死に対する特別な態度がある。それは、死を嫌な目で見ることではなく、死に対して冷静で無関心な態度、つまり「拙者が存在していない」ことを自然に受け入れるという態度である。これは、私が武士に興味を持つようになった最も大きな理由である。

私はロシアの隣にあるヨーロッパの国、ベラルーシで生まれ育ったが、武士文化にずっと憧れていた。戦士の使命は外国から来た敵と戦い、主君を守ることだと言えるだろう。少なくとも、ヨーロッパの騎士はそうであった。しかし、日本の武士は全く異なる。武士は大名に仕えるだけでなく、高潔で立派な人間になるために命をかけて頑張った。これは武士道に関する資料で書かれており、また、私が本レポートで研究してきたことに反映されている。武士についてのテーマを選んだ時、私は、自分とは遠う文化にできるだけ深く浸かりたいと考えていた。私は外国出身で、別の文化で育ったにもかかわらず、武士の思想に惹かれ、共感できるとずっと感じていた。

(以上、7123字)

## 参考文献

- 1) Долин Александр (1989) 『Культ самурайских воинских искусств в современной Японии』 Феникс
- 2) Кинг Уинстон (1999) 『Дзэн и путь меча: Опыт постижения психологии самурая』 Евразия
- 3) Маслов Алексей (2010) 『Бусидо: кодекс чести самурая』 Феникс
- 4) Нитобэ Инадзо (2004) 『Бусидо - душа Японии』 София
- 5) 大道寺 友山 (1943) 『武道初心集』岩波書店
- 6) 山本常朝 (2003) 『葉隠』TTJ・たちばな出版

2025年8月4日提出  
日本語・日本文化研究 A (2025 年前期木曜 4 限)  
長友文子先生

# 生け花

## — 日越文化の架け橋 —

日本語・日本文化研修留学生  
出身大学の大学名：ハノイ大学  
学籍番号：C2410011  
氏名：グエン・テイ・ハイ・ハー

# 目 次

1. はじめに	1
2. 生け花について	1
2-1. 概要	1
2-2. 主な流派	1
2-3. 歴史	2
2-4. 生け花の哲学的・精神的な基礎	3
3. 日越文化の架け橋として	4
3-1. 共通の価値観	4
3-2. ベトナムにおける生け花の発展	5
3-3. 生け花との出会い	6
3-4. 日越文化の架け橋と交流促進における役割	6
4. おわりに	7
参考文献	

## 1. はじめに

生け花（華道）は、長い形成と発展の歴史を持つ日本の伝統的な芸術である。私は長年、日本文化に深い関心を持ち、特に魅了されたのが「生け花」である。花を通じて自然の美しさを表現するというこの芸術は、静かでありながらも強いメッセージを持ち、見る人の心を静める力があると感じている。そして、日本における生け花の精神性と美意識は、ベトナム人の心にも響くものがあると信じている。

現実的にも、近年ベトナムにおいては日本文化に対する関心が高まっており、生け花のさまざまな展示会や体験イベント、ワークショップなどが開催されている。日本大使館や文化センターを中心に行われるこれらの活動は、単に「花を活ける体験」ととどまらず、日本人とベトナム人が互いの価値観を共有し、理解を深める場となっている。ベトナム国内でも、日本式の生け花に興味を持ち、学ぶ人々が増えていることは、この芸術が両国をつなぐ架け橋となっている証と言えるであろう。

こうした背景のもとで、本研究では「生け花—日越文化の架け橋」というテーマを掲げ、生け花の特徴を分析し、どのようにして両国の文化交流におけるその意義と影響を明らかにすることを目的とする。生け花を通して広がる感性、学び合い、そして相互理解が、今後の日越関係においてさらに重要な役割を果たすことを願っている。

## 2. 生け花について

### 2-1. 概要

今日の日本において、草木や花を花瓶に挿す伝統的挿花文化は「華道（花道）」、あるいは「いけばな（生花、活花、いけ花など）」と呼ばれている。これらの用語の定義は曖昧であるが、本研究では生活文化の一分野の総称としては「生け花」という呼称を用いることとする。

生け花はいわゆる芸道、つまり、芸術と道とが結びついた文化の一つである。生け花（華道）や茶道など日本文化における「道」とは、単なる分野や領域といった意味ではなく、精神的な修養や人生の在り方を含んだ深い概念である。それぞれの「道」は、長い年月をかけて磨き続けるものであり、自己を高めるための道でもある。

生け花がいわゆるフラワーアレンジメントと異なるのは、その目的が作品制作のみならず、挿花の過程に重点が置かれている点にあるといえる。また、どのような場面で用いられるのか、その場合どのような決まりがあるのかといった慣習も蓄積された。あるいは花器や花鋏といった道具も、華道文化を構成する不可欠の要素である。

そして、これら生け花の基盤となっているのが流派である。以下では、生け花を構成するこれらの諸要素について確認していきたい。

### 2-2. 主な流派

生け花、長い歴史の中でさまざまな流派が生まれ、発展してきた。現在では、数百とも言われる流派が存在しており、それぞれに独自の美学やスタイル、哲学を持っている。しかし、その中でも特に広く知られ、多くの支持を集めているのが「三大流派（さんだいいゅうは）」と呼ばれる流派である。本研究では、池坊（いけのぼう）、草月流（そうげつりゅう）、そして小原流（おはらりゅう）の三つの流派に注目し、それぞれの特徴や用途につ

いて簡潔に紹介する。

まず、最も歴史のある流派である池坊（いけのぼう）は、京都の六角堂を発祥とする由緒正しい流派である。伝統的な様式を守りながら、「立花（りっか）」や「生花（しょうか）」といった形式で、自然の景色や宇宙観を花で表現する。池坊の作品には、バランスと調和が重要視されており、三角形の構成（真・副・体）を基本にした構造美が特徴である。精神的な修養の一環としても重んじられており、神社仏閣での儀式や公式な場面で飾られることが多い流派である。

次に紹介する草月流（そうげつりゅう）は、比較的新しい流派であり、自由で現代的な表現を重視している。伝統にとらわれず、花材以外にも鉄、木材、ガラスなど多様な素材を使うことができるのが大きな特徴である。個性や創造性が尊重されており、誰でも楽しめる「自由花」のスタイルは、アートの一形態としても評価されている。草月流の作品は、ホテルや商業施設、ファッションイベントなどの装飾としても人気があり、国内外のアートシーンにも積極的に登場している。

最後に小原流（おはらりゅう）は、特に西洋の花や洋風の器との調和を得意とする流派である。「盛花（もりばな）」というスタイルが代表的で、水盤などの広い器を使い、水面と空間のバランスを意識した構成が特徴である。自然の風景や季節感を大切にしながらも、現代のライフスタイルに合うような表現が多く、家庭での装飾やショップディスプレイなど、日常的でカジュアルな場面にも多く活用されている。

このように、三大流派はそれぞれ異なる美意識と目的を持ちながらも、日本文化に深く根ざし、多くの人々に感動や癒しを与え続けている。

## 2-3. 歴史

### 生け花の起源

生け花の起源は仏教に関連しており、特に仏壇に供える花を美しく飾る儀式から発展したとされている。6世紀に仏教が日本に伝来し、仏教の儀式の一部として花を供えることが行われ、これが生け花の最初の形態であると言われている。

### 中世（平安時代～鎌倉時代）

平安時代（794年～1185年）から鎌倉時代（1185年～1333年）にかけて、生け花はさらに進化し、貴族や僧侶により発展した。この時期には、仏教儀式で花を使うことから、花を配置する方法やその意義が深く掘り下げられた。特に、平安時代に生けられる花には、季節感を大切にする傾向が見られるようになり、生け花が本格的に儀式や美学の一環として洗練されていった。

### 近世（室町時代～江戸時代）

室町時代（1336年～1573年）から江戸時代（1603年～1868年）にかけて、生け花はますます重要な文化的実践となり、特に武士階級の間で流行した。江戸時代には、いくつかの流派が成立し、その後の生け花の伝統を築いた。これには、特に「池坊」（いけのぼう）流が有名である。池坊流は、花の配置に対する理論的なアプローチを体系化し、より高度な形式と規則を設けた。

また、江戸時代には「花道」としての専門的な道が開かれ、教室や師弟制度が確立され、流派ごとの特色が生まれた。この時期には、花が単なる装飾としてではなく、道徳や精神的な象徴として扱われるようになり、実践者たちは生け花を通して自己の精神性を深めることを目指した。

### 近代（明治時代～昭和時代）

明治時代（1868年～1912年）には、西洋文化の影響が強くなり、花道も近代的なアプローチを求められるようになった。西洋の花のスタイルが紹介され、生け花の形式や道具にも変化が見られた。この時期に生け花は、外部の影響を受けつつも、日本の伝統的な美学を守りながら発展していった。

戦後、昭和時代（1926年～1989年）には、生け花はますます大衆化し、社会的地位を問わず多くの人々が生け花を学ぶようになった。また、国際的な交流が進み、世界中で日本の生け花が注目されるようになった。日本国内では、生け花の展覧会やコンテストが盛況に行われ、アートとしての側面が強調されるようになった。

### 現代（平成時代：1989年～2019年、令和時代：2019年～現在）

現代において、生け花は単なる日本の伝統芸術にとどまらず、国際的に認知されるアートフォームとなった。今日の生け花は、伝統的な技法と現代的なアプローチを融合させる傾向が強まり、海外でも多くの愛好者を持つ。

日本国内では、生け花は依然として文化的に重要な存在であり、結婚式、葬儀、その他の儀式などで利用されるほか、企業や公的施設、家庭内でも見られることが多い。また、現代の生け花は、芸術的な展示としても重要な役割を果たしており、美術館やギャラリー、国際展覧会などで展示されることも増えている。特に、花道の流派による異なるスタイルや、個々の生け花作家による斬新なアプローチが注目されている。

また、SNS（ソーシャルメディア）の普及により、生け花はより多くの人々に親しまれるようになった。特にInstagramやPinterestなどのプラットフォームでは、生け花の美しい作品がシェアされ、世界中の人々はその芸術性に触れる機会が増えている。

### 2-4. 歴史生け花の哲学的・精神的な基礎

生け花の中でも、特に重要とされるのが「自然との調和」、「無常の美」、そして「精神統一としての行為性」の三点であると言える。

第一に、生け花の根本にあるのは、自然との調和の思想である。生け花は自然物を使いながらも、人間がそれを主導的に制御するのではなく、植物本来の形や流れを尊重し、それに寄り添うかたちで構成される。この思想は、日本の伝統的自然観と密接に結びついており、人と自然は共存関係にあるという価値観を反映している。

第二に、生け花には「無常（むじょう）」の美意識\*\*が色濃く表れている。花という存在は一時的であり、いずれは枯れてしまう。だが、その儚さの中にこそ美を見出すという考え方が、生け花の美学に通底している。このような無常観は、仏教、とりわけ禅の思想に由来しており、「変化こそ自然の摂理である」という哲学的認識を育む。

第三に、生け花は単なる芸術制作ではなく、精神を整える「行（ぎょう）」としての側

面を有している。花をいける行為は、自身の心を見つめ、静かに整える時間でもある。動作の一つひとつに集中し、対象と向き合うことで、内面的な静寂と集中が生まれる。このような生け花の実践には、自己修養や内省といった精神的価値が込められている。

これらの基盤は、生け花が単なる芸術表現を超え、哲学的な問いかけと精神修養を伴う総合的な文化実践であることを示している。

### 3. 日越の文化架け橋として

#### 3-1. 共通の価値観

ベトナムと日本は、地理的・歴史的背景から異なる文化を育んできたが、生け花を通して共通の価値観を見出し、文化交流の架け橋を築く可能性を秘めている。

まず、両国に共通するのは、自然を尊び、共生しようとする精神である。ベトナムもまた、四季折々の豊かな自然に恵まれ、人々は自然の恵みに感謝し、その中に美を見出す文化を持っている。生け花が自然のありのままの姿を尊重し、それを芸術として昇華する試みであることは、ベトナム文化における自然への敬意と共鳴するであろう。

次に、精神性や内面の豊かさを重視する傾向も共通の価値観として挙げられる。ベトナム文化においては、儒教や仏教の影響が深く、物質的な豊かさだけでなく、心の平穏や倫理観を重んじる。生け花が生み出す静謐な美は、ベトナムの人々にとっても、日々の喧騒から離れ、内省を深める機会となりうる。生け花の練習を通じて培われる集中力や忍耐力も、両国の文化において美德とされる資質である。

さらに、美的感覚における「簡素さ」や「素朴さ」への共感も期待される。ベトナムの伝統工芸品や建築には、派手さよりも素朴で機能的な美しが多く見られる。これは、生け花における「わび・さび」や「間」の美意識、すなわち、過剰な装飾を排し、本質的な美を追求する姿勢と通じる部分がある。両国の美意識の中に存在する「引き算の美学」は、互いの文化への理解を深める土壌となるであろう。

生け花は、両国の共通その哲学的・精神的要素が、ベトナムの人々の自然観、精神性、美意識、そして伝統を重んじる心と深く響き合うことで、日越間の文化の架け橋となり、共通の価値観を育む重要な役割を果たす可能性を秘めているのである。このように生け花を通して、互いの伝統文化への理解を深め、尊重し合うことは、両国間の文化交流をより豊かなものにするであろう。

#### 3-2. ベトナムにおける生け花の発展

ベトナムにおける生け花の受容と発展は、日越両国の文化的共鳴性に支えられた自然な流れである。特に、静寂や自然との共存を重視する精神的価値観が両国に共通していたため、生け花は異文化としてではなく、むしろ「共感可能な表現手法」として、徐々に人々の関心を集めてきた。

#### 歴史的導入と社会的関心の高まり

生け花がベトナムに初めて紹介されたのは、1973年の日越国交正常化以降である。この国交回復を契機に、日本文化に対する理解と関心が徐々に広がり始めたが、当初は主に外交的・形式的な紹介にとどまっていた。生け花が本格的に一般層に浸透し始めたのは、

2010年代に入ってからである。

この時期、多くの大学、日本文化センター、さらには日本語教育機関において、生け花の展示会やワークショップ、体験イベントなどが積極的に開催されるようになった。特に、都市部に住む若年層や文化的関心の高い女性層を中心に、花を通じて「静けさ」や「内面の美」に触れることへの関心が顕著に高まった。これは、急速な都市化と経済成長のなかで、精神的な癒しや自己表現の場を求める現代ベトナム人のライフスタイルとも合致していたと考えられる。

### ベトナム人講師の登場と教育体制の形成

生け花の普及において特筆すべきは、ベトナム人による教育体制の確立である。特に、日本の流派において正式な資格を取得したベトナム人講師の存在が、草の根的な文化浸透を後押ししている。

その代表例が、グエン・タイン・トゥ（Nguyễn Thanh Tú）氏である。彼女は2017年、ベトナムにおいて初めて日本の流派に認定された生け花講師として活動を開始し、個人指導やワークショップを通じて多くの学習者を育成してきた。2020年には、ベトナム初となる生け花専門のアートをスペースを開設し、教育と展示の両面で活動を本格化させた。このアートをスペースでは、日本の伝統様式を継承しつつも、ベトナム固有の花材（例えば、ハス、ラン、トンキンバナなど）を用いた創作が積極的に試みられている。

このように、日本の伝統に基づきながらも、ベトナムの自然や感性を融合させた生け花が誕生しており、それは単なる「模倣」ではなく、「文化的翻訳」あるいは「創造的再解釈」と言える現象である。

### 国際的評価と文化発信への転換

近年、生け花におけるベトナムの立ち位置は、「受容者」から「発信者」へと移行しつつある。2022年には、ベトナム人による生け花作品が初めて日本国内で正式に公開され、国際的な舞台でも評価を得た。さらに2024年には、ベトナム国内で毎年恒例となる生け花展が定着し、同年、ベトナムが初めて国際生け花展の主催国として選ばれるに至った。

これは、日本文化の紹介という一方向的な枠を超え、ベトナム自身が「創り手」として世界に向けて文化を再構成し、発信する段階に入ったことを意味する。生け花という伝統文化が、ベトナムの土壌に根付き、独自の進化を遂げつつある現状は、日越の相互理解を深化させる上で非常に意義深い。

### 3-3. 生け花との出会い

これまで、日越両国に共通する文化的価値観や、ベトナムにおける生け花の受容と発展の歩みについて述べてきた。だが、筆者が本研究テーマに強い関心を抱くに至った背景には、単なる理論的関心にとどまらず、自身の体験に基づく「心の実感」があったことを明記しておきたい。

初めて「生け花」という言葉に触れた際には、それを単に「花を美しく飾る日本の文化的所作」程度に捉えていた。すなわち、視覚的美を重視する装飾芸術の一形式という程度

の認識であった。ところが、大学における生け花体験の授業に参加した際、この認識は大きく覆されることとなった。

一本の枝を選ぶ所作、器の位置を微妙に調整する手つき、空間に「余白」をつくり出す感覚、これら一連の動作には、明確な言語化が困難な精神的深度が伴っていた。筆者はその時初めて、「自然を整える」のではなく、「自然を受け入れる」という視座の存在に気づかされた。この体験を通して、自然の不均衡や不完全さをも美と捉える価値観が、静かにだが確かに筆者の中に刻まれたのである。

また、同じ体験に参加したベトナム人学生の中には、「この静けさの中に、日本人の心が少し見えた気がする」と語った者もいた。この感想は、言語や論理では捉えきれない精神性が、非言語的かつ静的な芸術表現を通して共有され得ることを示唆している。

このように、筆者自身の生け花との出会いは、知的関心を越えた、身体的・情緒的次元における気づきの契機となった。国境や文化の違いを越えて、人間の深層にある感性や美意識が共鳴しうることを、自らの経験として実感したのである。

#### 3-4. 日越文化の架け橋と交流促進における役割

生け花は、長らく日本文化の伝統的芸術として国内外に紹介されてきたが、近年においては単なる文化紹介の域を超え、国境を越えた文化的共感と共鳴を生み出す芸術として新たな役割を担いつつある。この変化は、特にベトナム社会における受容と展開の中に明確に見て取ることができる。

実際、現在のベトナムでは、ハノイやホーチミンといった大都市を中心に、生け花の定期教室が各地で開講されており、学習者数も年々増加傾向にある。この広がりは一過性のブームではなく、芸術体験としての生け花が、ベトナム人の精神性や美意識とどこか深い部分で響き合っていることの現れと考えられる。また、文化交流イベントや展示会においても、生け花は単なる「技法の紹介」ではなく、「心で感じ取る文化」としての位置づけを得ている。これは、日越間における文化理解の質的変化を象徴する事象である。

このような変化の本質には、「日本文化の受容」から「共鳴」へのパラダイムシフトがある。すなわち、ベトナム人が生け花を単に「日本の伝統文化」として学ぶのではなく、自らの文化的感性と対話させながら、新たな表現の地平を切り開こうとしているという点が注目される。これは、いわば“共鳴の文化”と呼ぶべきものであり、異文化が現地に根付く際に生じる重要な質的転換の一つである。この共鳴の文化は、芸術を通して静かに、しかし確実に地域社会に浸透しつつあり、その中核には感情的共感と精神的共振がある。

このような「共鳴」は、さらに次の段階へと進化している。それが、「共創と持続的交流」という概念である。生け花という芸術は、決して一方通行的な文化伝達的手段ではない。むしろ、それは人と人が向き合い、互いの文化的感性を尊重しながら創造的な関係性を築く場となっている。例えば、ベトナム国内で活動する生け花指導者の中には、日本で修行を積んだ後に帰国し、自国の植物や器を用いてベトナム独自のスタイルを模索している例も報告されている。このような動きは、生け花が「日本の伝統文化」という枠を超え、日越の感性を融合させた新たな芸術表現として再解釈されていることを示している。

この「共創」はまた、持続的な文化交流の基盤ともなる。国同士の外交や制度による交流とは異なり、生け花を中心とした草の根レベルでの文化的つながりは、より柔軟で、持

続可能な信頼関係の醸成を可能にする。なぜなら、それは個人の内面的体験や感情の共有に基づいているため、時間や制度に左右されにくいからである。この点において、生け花は日越両国の間において、単なる文化資源ではなく、「精神的インフラ」としての機能を果たし得ると評価できる。

以上を総合すると、生け花は現在、日越の文化的共感を促す芸術として、また“共鳴の文化”を象徴する実践として、さらには未来志向の「共創と持続的交流」を可能にする媒体として、極めて重要な役割を果たしつつある。こうした文化交流のあり方は、今後、他のアジア地域やグローバルな場における異文化理解のモデルケースともなり得る可能性を秘めている。よって、生け花は単なる日本文化の紹介に留まらず、共感・共鳴・共創という三位一体の文化的価値を体現する媒体として、国際文化交流の新たな地平を切り拓いていると結論づけられる。

#### 4. おわりに

本研究では、生け花という伝統芸術を通して、日本とベトナムの文化的共感の可能性、そして「共鳴」や「共創」を軸とした国際文化交流の新たな展望を考察してきた。生け花は単なる装飾芸術ではなく、自然と人間、個と社会、自己と他者の関係性を静かに問い直す場を提供する、深い精神性を備えた文化実践である。その本質に触れたとき、私自身が最も強く感じたのは、「静けさの中で他者とつながる」という、現代社会で失われつつある感覚の再発見であった。

このような感覚の共有こそが、国や言語、歴史的背景を越えた「文化的共感」の核心を形成する。生け花がベトナムにおいても広がりを見せ始めている今日、私たちはそこに単なる異文化紹介を超えた、「共鳴の文化」としての生け花の姿を確認できる。つまり、それは日本文化が一方向的に伝えられるのではなく、ベトナムの文化的価値観と呼応しながら、新たな意味を帯びたかたちで再解釈されているということである。

このような動的な文化受容は、文化交流のあり方そのものを問い直す契機をもたらす。交流とは、単なる情報の交換ではなく、他者の価値観に耳を傾け、自らの感性を再構築していく「共創のプロセス」であるべきであり、生け花はまさにそのような交流の象徴となり得る。

結論として、生け花は日本文化の一要素にとどまらず、異文化間の精神的な架け橋としての機能を果たし得る普遍的な力を内包している。特に今日のような多様性と断絶が交錯する時代において、静けさの中に他者の存在を見出し、そこに心を通わせることの意義は極めて大きい。生け花を通して生まれるこのような共鳴と共感の経験が、国境を越えて人と人をつなぐ「文化の再接続」を導く一歩となることを、私は確信している。

## 参考文献

- 1) Trần Thanh Giang 「Nghệ thuật cắm hoa Ikebana của Nhật Bản」  
<https://vietnam.vnnet.vn/vietnamese/print/nghe-thuat-cam-hoa-ikebana-cua-nhat-ban-351259.html> (参照 2025-01-29)
- 2) 文化庁「生活文化調査研究事業(華道)(令和2年度)」  
[https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/seikatsubunka\\_chosa/pdf/93014801\\_04.pdf](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/seikatsubunka_chosa/pdf/93014801_04.pdf) (参照 2025-01-29)
- 3) はな物語「生け花の流派 特徴と歴史で見るその違いとは」  
<https://www.hanamonogatari.com/blog/2026/?srsltid=AfmB0oqbwwnMX7jcHIBmA4Ht8RnMYr8YYtq2JtsBTTEd5rGHCCQYJxKA> (参照 2025-05-25)
- 4) VN Ikebana 「Thanh Tú – Ikebana là ai ?」  
<https://ikebana.vn/our-team/nguyen-thanh-tu/> (参照 2025-06-01)
- 5) THIÊN ĐIỀU 「Ngắm những tác phẩm Ikebana Việt Nam lần đầu dự triển lãm tại Nhật Bản」  
<https://tuoitre.vn/ngam-nhung-tac-pham-ikebana-viet-nam-lan-dau-du-trien-lam-tai-nhat-ban-20221114142030283.htm> (参照 2025-06-20)
- 6) Embassy of the Socialist Republic of Vietnam in Japan 「"Flower diplomacy" promotes Vietnam - Japan friendship」  
<https://vnembassy-jp.org/en/flower-diplomacy-promotes-vietnam-japan-friendship>  
(参照 2025-06-20)
- 7) Embassy of the Socialist Republic of Vietnam in Japan 「Vietnam to Chair the Ikebana International Fair in December 2024」  
<https://vnembassy-jp.org/en/vietnam-chair-ikebana-international-fair-december-2024> (参照 2025-06-20)

2025 年 8 月 5 日 提出日  
日本語・日本文化研究 A (2025 年 前期 火曜 4 限)  
長友文子先生

# ラオスと日本の文化比較

## —ピーマイラオとお正月、ブン・カオ サラックとお盆、ブン・バンファイと 龍勢祭りの類似点と相違点を中心に—

日本語・日本文化研修留学生  
大学名：サワンナケート大学  
学籍番号：C2410015  
氏名：ポムビジット・サイコーン

# 目次

1. はじめに .....	1
2. ラオスの行事 .....	1
2.1 ピーマイラオ祭り .....	1-2
2.2 ブン・カオサラック祭り .....	2
2.3 ロケット祭り .....	2
3. 日本の行事 .....	2
3.1 お正月 .....	2-3
3.2 お盆 .....	3
3.3 龍勢祭り .....	3
4. 「ラオスの行事」と「日本の行事」にみられる類似点と相違点 .....	3
4.1 「ピーマイラオ祭り」と「お正月」 .....	3-4
4.2 「ブンカオサラック祭り」と「お盆」 .....	4
4.3 「ロケット祭り」と「龍勢祭り」 .....	4
5. おわりに .....	4-5
参考文献 .....	5-6

## 1. はじめに

ラオスと日本は地理的に遠く離れた国であり、ラオスは内陸国で、海に囲まれた日本とは異なる。また、ラオスは日本ほど大きな国ではないが、それぞれの地域には独自の行事が多く存在する。両国の行事は数が多いため、代表的な三つの行事を取り上げる。ラオスの行事では、ピーマイラオ祭り、ブン・カオサラック祭り、ロケット祭りを、日本の行事では、お正月、お盆、龍勢祭りを取り上げ、ピーマイラオとお正月、ブン・カオサラックとお盆、ロケット祭りと龍勢祭りを比較し、共通点と相違点をまとめる。特に、それらの行事における習慣、儀式を中心に調べていく。

ラオスと日本は地理的に異なり、ラオスは内陸国であり、海に囲まれた日本とは大きな違いがある。それでも、これらの行事を比較すると、共通点があるのではないかと感じる。もし、共通点があるとしたら、その共通点は、両国の人々がお互いの国を理解する方法の一つになるのではないだろうか。そうすれば、お互いの国を身近に感じられるのではないだろうか。

本レポートの目的は、ラオス人が日本文化と日本人に興味を持つこと、また日本人がラオス文化に興味を持つことで、お互いの関係を深く理解することである。筆者はラオスで6年間僧侶として過ごした経験があり、ラオスの祭りは主に寺院で行われることに親しんでいる。その第一歩として、両国に昔からある行事を比較し、共通点を見出すことができれば、お互いに親近感が持てるのではないかとと思われる。この親近感こそが、お互いを理解することにつながっていくと考えられる。

## 2. ラオスの行事

### 2-1. ピーマイラオ

日本の行事ではお正月が相当する。

ラオス語で「ピーマイ (ປີໄມ)」は「新年」を意味し、すなわちラオスにおける旧正月を指す。この行事は、毎年4月13日から15日または16日にかけて行われ、タイのソンクラーンと同様に、太陽暦ではなく太陰太陽暦を基準とした伝統的な祝祭である。

ソンクラーン (สงกรานต์) は、タイにおける旧正月の伝統行事であり、ラオスのピーマイ・ラオと深いつながりを持つ水の祭りである。毎年4月13日から15日頃にかけて行われ、その語源はサンスクリット語の「サン克蘭ティ (संक्रान्ति)」に由来し、太陽が新たな星座に入る瞬間を意味する。ソンクラーンにおいては、仏像や年長者に水を注ぐ「ロットナム (รดน้ำ)」という儀式が中心に行われ、水には煩惱や不浄を洗い流す象徴的な意味が込められている。このような行為は、仏教におけるカルマの浄化や功德の積み重ねとも結びついており、精神的再生と社会的調和を目的とする重要な意味を持っている。また、この儀礼はインド仏教に由来しつつ、地域文化と融合することで独自の形を形成してきたとされる。そのため、ソンクラーンはピーマイ・ラオと同様に、自然や祖先、共同体とのつながりを再確認するための重要な文化行事として位置づけられる。

ピーマイ・ラオはラオスで最も重要な年中行事の一つであり、仏教への信仰と自然や祖先への感謝の気持ちが込められている。この祝祭は3日間にわたって行われ、それぞれの日に特別な意味がある。

1日目は「過去を清める日」とされ、人々は家や仏像を掃除し、寺院にて功德を積む儀式に参加する。

2日目は「中間の日 (無の時間)」と呼ばれ、旧年と新年の狭間として位置づけられ、静かに過ごすことが多い。

そして3日目が「新年の始まり」であり、新しい一年の幸運と繁栄を祈って様々な伝統儀式が行われる。代表的な宗教儀礼としては、仏像や僧侶に水をかけて清める行為がある。これは**ぼんのう** 煩惱や悪運を洗い流し、清らかな心で新年を迎えるという意味を持っている。

また、砂を寺院に運んで仏塔を築く儀式も見られ、これは過去に仏教施設から持ち出した「足の砂」を返すという功德的な行いとされる。かつては、家庭内で水を掛け合い、家族の絆を深めるための穏やかな儀式であったが、現代では都市部を中心に、通りで水を掛け合う大規模なイベントへと発展した。特にルアンパバーンなどでは、伝統舞踊、象の行進、ミス・ピーマイ・コンテストなどが行われ、観光客も巻き込んだ一大イベントとなっている。伝統衣装に

身を包み、踊りや歌を楽しむ姿は、この祝祭が単なる娯楽を超えた「心の洗濯」となる文化行事であることを象徴している。

## 2-2. ブン・カオサラック

日本の行事ではお盆が相当する。

「ブン・カオサラック」は、ラオスにおける伝統的な供養行事であり、祖先への感謝と靈魂の供養を目的とするものである。この祭りは、毎年陰暦8月の満月の日に実施され、仏教的な死者供養の側面が強調されている。

「ブン」は徳を積む行為を意味し、「カオ」は米、「サラック」は捧げ物や供物を表す語である。この祭りの主たる目的は、祖先の靈に供物を捧げることによって、彼らの魂が輪廻のサイクルから解放され、安らかに成仏することを願う点にある。

祭りの前夜には、地域住民が供物を盆に乗せて寺院に持参し、僧侶による読経と供養を依頼する。代表的な供物としては、カオトム（もち米とバナナや豆を葉で包んだもの）、果物、線香などが挙げられる。これらの供物は祖先への敬意と感謝を表すものであり、同時に供養を通して参加者自身の徳積みにもつながるとされている。

また、祭りのもう一つの重要な儀式として、灯火を用いた先祖供養がある。特に夜間には、蠟燭を灯しながら静かに先祖を偲ぶ場面が見られ、家族の絆を再確認する機会ともなっている。現代においても、多くの家庭が一族で寺院を訪れ、供養の儀式に参加する様子が見られる。このように、「ブン・カオサラック」は仏教の教義と深く結びつきながら、家族や地域社会の連帯を強化する重要な文化行事として今日まで受け継がれている。

## 2-3. ブン・バンファイ（ロケット祭り）

日本の行事では龍勢祭りが相当する。

「ブン・バンファイ」は、ラオスとタイ東北部・イサーン地方に伝わる、豊作と雨乞いを願う伝統的な祭りである。この祭りは、毎年陰暦6月～7月（旧暦満月期）に開催され、竹製のロケットを空に打ち上げることで、雨神（ナーガやパヤ・テーン）への祈りを表現する儀式である。

ロケットは村人が手作りし、火薬を詰めた竹筒を装飾しながら競い合う。打ち上げの成功度（高さ・美しさ）が豊作と雨の量に通じるとされ、技術と共同体の力が示される重要な場となる。

3日間にわたって行われるブン・バンファイでは、初日に寺院で仏教儀礼（読経や供物捧げ物）が行われ、徳を積むことが強調される。その後、伝統舞踊や音楽のパレード、そして最終日に各村が自慢のロケットで競い合う行事へと発展する。都市部では観光的な要素も加わり、大規模なイベントとして開催されるようになっている。

文化面では、もともと前仏教の豊穰儀礼があり、そこに仏教的な徳積み観念が融合されたものである。社会学者によれば、現代では地域の政治・経済的な側面や観光資源としての価値も強化され、伝統行事の商業化・大衆化が進んでいることも注目されている。

## 3. 日本の行事

### 3-1. お正月

ラオスのピーマイ・ラオが相当する行事である。

日本における「お正月」は、毎年1月1日から始まる新年を祝う行事であり、家族や親戚が集まり、一年の健康や幸福を祈る大切な年中行事である。ラオスの「ピーマイ・ラオ」と同様に、心身を清め、新しい一年を迎える意味が込められており、信仰・文化・家庭が交差する行事となっている。

まず、新年を迎える前には「大掃除」を行い、家の中を清める。この行為は、神道における「年神様」を清らかな場所へ迎えるためとされ、門松やしめ飾りなどの正月飾りを家の入り口に飾る習慣もある。また、神仏への感謝を示すために「鏡餅」を神棚や床の間に供え、年の始まりにおける豊作や無病息災を祈る。

年明けには「初詣」と呼ばれる神社仏閣への参拝が行われ、人々は家族の健康、学業成就、商売繁盛などを願う。また、大晦日には仏教寺院で「除夜の鐘」が108回鳴らされ、煩惱を祓うとされる。

正月料理の一つである「おせち料理」は、各料理に意味があり、「黒豆」は健康、「昆布巻き」は喜び、「数の子」は子孫繁栄を象徴する。これらの料理は重箱に詰めて家族で食べ、年神様と共に新年を祝う形となっている。

また、子どもたちは「お年玉」をもらい、凧揚げ、羽根つき、こま回しなどの正月遊びを楽しむ。これらの活動を通して、世代を超えた文化の継承が自然と行われている。

このように、日本のお正月は宗教的要素と家庭的な団らんを融合させた行事であり、ラオスのピーマイ・ラオと共通する「浄化と再生」「祖先や神仏への感謝」「家族の絆の再確認」という要素を持っている。

### 3-2. お盆

ラオスのブン・カオサラックが相当する行事である。

日本の「お盆」は、先祖の霊を迎え入れ、感謝の意を表す仏教的な伝統行事である。一般的には毎年8月13日から16日までの4日間にわたって行われ、地域によっては7月に実施されることもある。お盆の行事は、祖先信仰と仏教思想が融合したものであり、日本人の精神文化に深く根ざしている。

お盆の始まりには「迎え火」を焚いて先祖の霊を家に迎え入れ、終わりには「送り火」によって霊を送り出す。多くの家庭では仏壇に精霊棚（しょうりょうだな）を設け、供物や果物、季節の野菜などを供える。また、家族がそろって墓参りをし、墓石を清掃し、線香を供えることが一般的である。こうした行動は、先祖とのつながりを確認し、家族の絆を深める役割を果たしている。

さらに、地域によっては「盆踊り」や「灯籠流し」など、共同体としての要素が強い行事も行われる。特に京都北郊地域では、地藏盆や霊送りなど、地域性のある多様な形で先祖供養が行われている。このような行事は、世代を超えた人々の交流の場にもなっており、日本におけるお盆は宗教儀礼の枠を超えて、文化的・社会的意味を持つ重要な行事である。

### 3-3. 龍勢祭り

ラオスのブン・バンファイが相当する行事である。

龍勢祭りは、埼玉県秩父市の吉田地区で毎年10月の第2日曜日に開催される伝統的な祭りである。この祭りでは、手作りの火薬ロケット「龍勢」が打ち上げられ、五穀豊穡や無病息災を祈願する。龍勢は、竹や木材などの自然素材を用いて地域の職人たちが一ヶ月以上かけて制作するもので、その形状や装飾には製作者ごとの工夫が込められている。

打ち上げの際には、口上と呼ばれる掛け声を上げながら、伝統衣装を着た人々が観客の前で儀式的に龍勢を紹介する。この祭りは、地域の神社である棕神社への奉納行事でもあり、古くから神道と深く関わってきた。

近年では、アニメ『あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない。』の舞台としても注目を集め、「コンテンツツーリズム（聖地巡礼）」としての観光効果も高まっている。アニメの登場人物の願いを象徴する「めんまロケット」が実際に打ち上げられたことで、若年層の観光客が増加し、伝統行事の継承と地域振興の新たなモデルとして注目されている。

## 4. 「ラオスの行事」と「日本の行事」にみられる類似点と相違点

### 4-1. 「ピーマイラオ」と「お正月」

類似点として、ピーマイ・ラオ（ラオス正月）と日本のお正月はいずれも新年を祝う伝統行事であり、宗教的な意味合いと祝福の要素が含まれている点が挙げられる。どちらの行事にも、心身を清め、神仏や祖先に感謝の気持ちを表す儀礼があり、家族と過ごすことを重視している。例えば、ピーマイ・ラオでは仏像に水をかけて清め、功德を積むことで新年を迎える準備をする。一方、日本のお正月では初詣に出かけ、神社や寺院で健康や平和を祈願する。また、両国とも家庭内での活動が重視され、ラオスでは家族で水を掛け合う伝統が、日本ではお

せち料理を囲みながら家族で過ごす習慣がある。このように、両者は「浄化」「祈願」「家族の絆」といった精神的な要素に共通点が見られる。

一方で、両国の新年行事にはいくつかの相違点も存在する。ピーマイ・ラオは毎年4月中旬に、仏教の教えと太陰太陽暦に基づいて行われるのに対し、日本のお正月は1月1日を中心に、太陽暦に従って祝われる。さらに、ピーマイ・ラオでは水を使って仏像や人々を清めることで過去の不運や煩惱を洗い流すという要素が強調され、街中では観光客も巻き込んだ水掛けイベントが行われるなど、開放的で祝祭的な雰囲気強い。それに対して、日本のお正月は神道や仏教の要素を背景に持ちながらも、より静かで家庭的な雰囲気が重視されており、門松や年賀状など、形式的で儀礼的な側面が目立つ。これらの違いから、ピーマイ・ラオは地域全体を巻き込んだ活発な祭りであるのに対し、日本のお正月は家庭を中心とした内面的な行事であると言える。

#### 4-2. 「ブンカオサラック」と「お盆」

類似点として、ラオスのブン・カオサラックと日本のお盆はいずれも祖先や死者を供養する行事であり、仏教的な信仰と祖先崇拜が融合した文化的慣習である。どちらの行事でも、家族や地域の人々が寺院や墓地を訪れ、供物や祈りを捧げることで故人の魂に感謝を表す。また、両行事には灯火をともして祖先の霊を迎える・送るという共通の象徴行為が存在し、ラオスでは寺で灯火を用いた儀式、日本では迎え火・送り火が行われる。さらに、供物の内容や儀式の形式は異なるが、家族の絆や精神的なつながりを再確認する時間として共通の社会的意義がある。

一方、両行事には宗教的実践や儀礼の形式においていくつかの相違点が見られる。ブン・カオサラックは陰暦8月の満月に行われ、家族が寺院に集い、僧侶に供養を依頼することを中心とする。その際、カオトムや果物などを捧げ、故人が成仏することを願う。また、祖先の名前を書いた紙を供物に添えるなど、儀式の形式がより仏教僧侶と密接に関わっている。一方、日本のお盆では家庭の仏壇に供物を捧げたり、墓参りをしたりする家庭内中心の供養が一般的であり、個人や家族単位での実践が多い。また、盆踊りや灯籠流しなど地域のイベントも多く、社会的つながりを表す面でも独自の特徴がある。したがって、ブン・カオサラックが寺院中心の儀式であるのに対し、お盆は家庭・地域が主体となる多層的な行事として捉えられる。

#### 4-3. 「ロケット祭り」と「龍勢祭」

類似点として、ラオスのブン・バンファイ（ロケット祭り）と日本の龍勢祭りはいずれも手作りの竹製ロケットを打ち上げる伝統行事であり、自然や神への祈りを込めた象徴的な祭りである。どちらも農業と深く関係し、豊作・無病息災・雨乞いなど自然との共生を願う意味を持つ。特に、竹や火薬を使ってロケットを打ち上げる点や、地域住民が技術と協力で製作に携わる点で共通しており、儀式と共同体の一体感を感じさせる祭りである。また、いずれの行事も伝統だけでなく、観光的側面を持ち、多くの人々を引きつけている点も共通している。

一方、ブン・バンファイと龍勢祭りには行事の目的や構成、雰囲気に違いが見られる。ブン・バンファイは陰暦6~7月に雨季の到来を祈って開催され、仏教儀礼に始まり、村ごとの競技的要素を含む祝祭的な雰囲気が強い。ロケットの打ち上げは村の誇りを示す行為であり、踊りや音楽、酒宴なども含めて大規模に行われる。一方、龍勢祭りは毎年10月に埼玉県秩父市で行われ、棕神社への奉納行事としての神道的側面が強調される。ロケットの制作には厳格な技術と準備が必要とされ、儀式性が高く、奉納前には「口上」と呼ばれる伝統的な挨拶も行われる。また、近年ではアニメ文化との融合により観光資源としての位置づけも強まっている。よって、ブン・バンファイは祝祭性と村の競争性を強く持つ一方で、龍勢祭りは神道的儀礼と地域文化の継承を重視した行事と言える。

### 5. おわりに

ラオスと日本の伝統的な祭りを比較することで、祭りが単なる季節の行事ではなく、人々の精神性、信仰、そして暮らしの在り方を反映する重要な文化的要素であることを深く実感した。ピーマイ・ラオと日本の正月、ブン・カオサラックとお盆、ブン・バンファイと龍勢祭など、

それぞれの祭りには、自然や祖先、そして地域社会とのつながりを大切にする精神が込められている。

私は高校時代、経済的な事情からラオスで出家し、寺で生活しながら学業を続けていた経験がある。その経験を通して、ラオスの人々がいかに仏教と深く結びついた暮らしをしているかを実感した。一方、日本に留学してからは、日本の伝統行事を自分の目で見て、現地の人々から話を聞いたり、文献を通して学んだりしてきた。実際にお盆の時期に帰省できたことはないが、家族を大切にし、祖先を敬う気持ちは、ラオスと日本の両方に共通する価値観であると強く感じている。

今回の比較を通じて、私は日本文化への理解を深めるだけでなく、自国の文化を改めて見つめ直すきっかけにもなった。祭りは世代を超えて受け継がれ、人々の心をつなぐ力を持っている。文化の違いを学び、尊重し合うことは、異なる国や地域の人々がより深く理解し合うための架け橋となるだろう。ラオスと日本の文化交流が今後さらに深まっていくことを願ってやまない。

(以上、7835 字)

#### 参考文献:

1. Khamp, S. (2012) 「Lao New Year Festival: Tradition and Celebration」『Lao American Coalition.』  
[https://laoamericancoalition.org/Docs/2555LAONEWYEAR\\_Khamp.pdf](https://laoamericancoalition.org/Docs/2555LAONEWYEAR_Khamp.pdf)  
(参照 2025 年 05 月 12 日)
2. Amantaka (2024) 「Amantaka Pi Mai Lao Itinerary」『Amantaka Official Site』  
<https://www.aman.com/sites/default/files/2024-03/Amantaka-Pi-Mai-Lao-Itinerary.pdf>  
(参照 2025 年 5 月 14 日)
3. EXO Travel (2016) 「LAOS FESTIVALS & EVENTS」『EXO Travel』  
[https://www.exoasia.vn/datafiles/3/2016-05-26/14642460053419\\_LAOS--FESTIVALS-EVENTS.pdf](https://www.exoasia.vn/datafiles/3/2016-05-26/14642460053419_LAOS--FESTIVALS-EVENTS.pdf) (参照 2025 年 5 月 20 日)
4. LuangPrabang-Laos 「Boun Khao Salak or the Celebration」『LuangPrabang-Laos』  
[Boun Khao Salak, the day of the ancestor, very important festival.](https://www.luangprabang-laos.com/boun-khao-salak-the-day-of-the-ancestor-very-important-festival)  
(参照 2025 年 5 月 25 日)
5. Pinwadee Srisupun, 「Rocket Festival in Transition: Rethinking 「Bun Bangfai」 in Isan」『Pinwadee Srisupun』 [Microsoft Word - APSA Pinwadee article edited](#) (参照 2025 年 6 月 3 日)
6. Jang, K. (2015). 「The Anohana Rocket at the Ryūsei Festival and Menma' s Wish: Contents Tourism and Local Tradition. In The Theory and Practice of Contents Tourism」『Hokkaido University』 [The Anohana Rocket at the Ryūsei Festival and Menma' s wish : contents tourism and local tradition](#)  
(参照 2025 年 6 月 10 日)
7. 一瀬勇士 (2015) 「盆行事の歴史的変遷と地域受容：長崎県の事例を中心に」『九州大学大学院人間環境学府 修士論文要旨』 [M1313001.pdf](#) (参照 2025 年 6 月 15 日)
8. 中村治 (2019) 「京都北郊の盆の行事」『国立歴史民俗博物館 紀要』第 207  
<https://rekihaku.repo.nii.ac.jp/records/2373> (参照 2025 年 6 月 15 日)
9. 公益社団法人子どもと文化研究所 (SIA) 「日本の伝統行事：お正月」<https://www.s-i-a.or.jp/child/japanese/pdf/gyouji.jp.pdf>  
(参照 2025 年 6 月 15 日)
10. 国際交流基金日本語国際センター 「外国人のための日本の文化通信 第 39 号『国際交流基金日本語国際センター』  
[https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/archive/pdf/001/tushin39\\_p12-13.pdf](https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/tsushin/archive/pdf/001/tushin39_p12-13.pdf) (参照 2025 年 6 月/16 日)

- 1 1. ふじみ野市国際交流センター「やさしい日本語 生活の情報」『ふじみ野市国際交流センター』<https://ficec.jp/info-fujimino/pdf/1212-japanese.pdf>  
(参照 2025年6月18日)
- 1 2. Gov-Online Japan (2020) 「The Dragon Ascends! - Ryūsei Festival in Chichibu」『Gov-Online Japan』<https://www.gov-online.go.jp/pdf/hlj/20200201/14-15.pdf>  
(参照 2025年6月19日)
- 1 3. Wikipedia (2020) 「Rocket Festival」『Wikipedia』  
[https://en.wikipedia.org/wiki/Rocket\\_Festival](https://en.wikipedia.org/wiki/Rocket_Festival) (参照 2025年6月20日)

2025 年 8 月 4 日提出  
日本語・日本文化研究 A (2025 年前期木曜 4 限)  
長友文子先生

若者の会話におけるメタファー  
表現の利用実態に関する考察と  
教育への応用  
—和歌山大学の日本人学生と  
留学生を中心に—

日本語・日本文化研修留学生  
大学名：ホーチミン市師範大学  
学籍番号：C2410014  
氏名：ダン タイン ロン

# 目次

1. はじめに.....	- 2 -
2. 研究目的 .....	- 2 -
3. 研究方法 .....	- 2 -
4. メタファー表現の概要 .....	- 2 -
4-1. メタファーの定義 .....	- 2 -
4-2. メタファーの分類 .....	- 2 -
5. アンケート調査の分析 .....	- 2 -
5-1. メタファー表現の認知度 .....	- 2 -
5-2. メタファー表現の利用効果に対する認識 .....	- 3 -
5-3. メタファー表現とその教育への応用 .....	- 5 -
6. 結論 .....	- 5 -
7. 今後の課題 .....	- 6 -
参考文献	

## 1. はじめに

人と人とのコミュニケーションは現代社会において欠かせないものである。ベトナム語に「話すことを学びなさい」という諺がある。これは、コミュニケーションが社会においていかに重要であるかを指す。「話すことを学ぶ」というのは、完全で丁寧に話すこと、そして相手に自分の言いたいことをはっきりと伝えるということである。それによりコミュニケーション効果が高くなる。情報技術が生活に欠かせないものとなった情報化社会において若者の言葉も徐々に発達していく。最も注目すべき現象の一つは相手に深い意味を伝えるためのメタファー表現（隠喩）である。メタファー（隠喩）は物事を具体的なイメージがうかぶ言葉に置き換えたり簡単な言葉にしたりすることで、新たなものの見方を開拓してくれる。メタファー表現は小説や詩などによく使われている修辞法である。私は二年前に大学で日本人と話す際に、メタファー表現を使う話し方に気づき、日本人が日常会話でよく使っているメタファーに興味を持った。

日本で勉強している留学生にとって、日常的な会話の中でメタファー表現が含まれる話し方を理解したり使ったりすることは難しいと言える。これは留学生が自分の言いたいことを自然に伝えられない原因の一つだと考えられる。現在、日常会話におけるメタファー表現に関する考察はあまりない。さらに、メタファー表現と言語教育に関する研究も少ない。以上の理由から、このテーマを選び、研究を行った。

## 2. 研究目的

本研究では、和歌山大学の日本人学生と留学生を対象に、日本人は会話でメタファー表現をよく使うのかについて考察したい。また、留学生は母国と日本でメタファー表現を勉強するのも明らかにしたい。最後に、日本語のメタファー表現の学習と日本語力の向上に関係があるのかについても明らかにしたい。

## 3. 研究方法

本研究では、和歌山大学の日本人学生（56名）と留学生（38名）を対象に、日常的な会話におけるメタファー表現への理解度と認知度を調査する。調査結果を分析した後、日本に留学している留学生の日常的な会話においてメタファー表現を使用する利点を明らかにする。これは、留学生が日本人学生のコミュニケーションスタイルをより理解するのに役立つ基礎となると同時に、日本語学習におけるメタファー表現に関する教育の充実を前提としたものである。

## 4. メタファー表現の概要

### 4-1. メタファーの定義

メタファーとは比喩の表現型のうち、「まるで～」「～のような」などの明確な比喩表現を使わずに、他の物事になぞらえて表現する比喩のことである。「暗喩」「隠喩」などとも呼ばれる。

### 4-2. メタファーの分類

メタファー表現の分類に関し、これまでさまざまな分類方法がある。メタファー表現の分類は、言語の表層的な修辞表現から、思考の深層構造にまで関わる理論へと発展してき

た。とりわけ、ジョージ・レイコフとマーク・ジョンソンによる『Metaphors We Live By』(1980)は、メタファーを単なる言葉の飾りではなく、人間の思考そのものを構成する「概念メタファー」として定義づけた。この理論に基づき、「時間はお金」や「議論は戦い」など、抽象概念がより具体的な経験に基づくメタファーによって理解されるとされている。メタファー表現は、大きく、概念メタファー、時間的メタファー(例：先・前)、構造的メタファー、方向性メタファー(例：幸せは上・悲しみは下)、存在論的メタファー(例：心=容器)などに分類されている。

教育の場面では、学習者の理解度や文化的背景を考慮し、メタファー表現を細かく分類する試みが行われている。とりわけ、慣用的メタファー、文化依存型メタファー、創造的メタファーという三つのカテゴリーが注目されている。慣用的メタファーとは、「口が滑る」「腹が立つ」のように、比喩性が薄れ、固定された意味を持つ表現であり、日常的な会話に多く含まれている。一方、文化依存型メタファーは、特定の文化や社会的価値観に基づいて成立している表現で、「男はオオカミだ」や「教室の花」のように性別役割や社会的暗示が込められる。これに対し、創造的メタファーはその場で独自に作り出される新鮮な表現であり、文学作品や詩などで用いられる。

これらの分類を通じて、言語教育では単なる語彙や文法の習得にとどまらず、メタファーを通じて思考や文化の違いを理解する力、すなわち異文化間コミュニケーション能力の育成にもつながるとされる。教育実践の中で、どのタイプのメタファーにどのように接触させるかは、学習者の習熟度や背景に応じた配慮が必要だと思われる。

## 5. アンケート調査の分析

本研究では、和歌山大学の日本人学生56名と留学生38名を対象に、日常的な会話におけるメタファー表現への理解度を調査した。調査期間は2025年1月30日から2025年5月20日までである。調査の結果は、以下の三つに分けられる。

### 5-1. メタファー表現の認知度

まず、「あなたは『メタファー表現』というフレーズを聞いたことがありますか」という質問に対し、調査結果から、留学生と日本人学生ほぼ100%が「聞いたことがあります」という答えを選んだことが分かった。

しかし、調査対象者によって日常会話の中でメタファー表現を聞いた頻度に関する回答数にも差が大きい。留学生の場合、メタファー表現をよく目にするのは「小説・詩(文学)」という回答が最も多く(94.7%)、次いで、「テレビ番組・コマーシャル」では、日本人学生が(34人)84.2%、留学生が(49人)87.5%を占めている。

次に、「あなたはどんな場面でメタファー表現を使いますか。」という質問では、「物や人をほめるとき」という意見が日本人学生の中で最も多く挙げられた一方、「使っていますが、意識しません」という意見が留学生の中で最も多かった。そのため、日常会話の中でメタファー表現が使われているが、意識せず使っている人もいることが分かった。

日常会話におけるメタファー表現の認知度を確認するために、アンケートでいくつかのメタファー表現を挙げ、答えを収集し、留学生と日本人学生に分類した。その調査結果を表にまとめると、次のとおりである。

表1 メタファー表現と対象者の回答

メタファー表現	留学生 名 (%)	日本人学生 名 (%)
時間はお金です	37 (97.4)	47 (83.9)
人生は長い旅だ	34 (89.5)	39 (69.6)
お母さんは太陽だよ	27 (71.1)	44 (78.6)
彼女は教室の花です	25 (65.8)	40 (71.4)
僕の心に火がつく	23 (60.5)	30 (53.6)
私の学問人生は険しい道のり	19 (50.0)	34 (60.7)
話し合いはここで終わりです	18 (47.4)	42 (75.0)
男はオオカミです	17 (44.7)	23 (41.1)
先のことを考えたい	16 (42.1)	39 (69.6)
(過去のことについて) 後ろを見る	12 (31.6)	36 (64.3)
心は容器です	7 (18.4)	3 (5.4)

表1の留学生(38名)と日本人学生(56名)を比較すると、両者の傾向には興味深い違いが見られる。たとえば、「時間はお金です」や「人生は長い旅だ」のような抽象的なメタファーは、留学生の方が高い認知率を示している。一方で、「話し合いはここで終わりです」や「先のことを考えたい」「後ろを見る(過去のこと)」など、日常的な行動や時間的メタファー表現は日本人学生で高い認知率を示している一方、留学生の場合は割合が低い。そのため、時間に関するメタファー表現は、留学生が日本人とコミュニケーションをとる際に戸惑う原因の一つにもなり得ると思われる。

## 5-2. メタファー表現の利用効果に対する認識

以下の図1は、「日常会話でメタファー表現を使用することについてどう思いますか」という質問に対し、留学生と日本人学生の回答を比較したものである。

## 日常会話でメタファー表現を使用することについてどう思いますか。

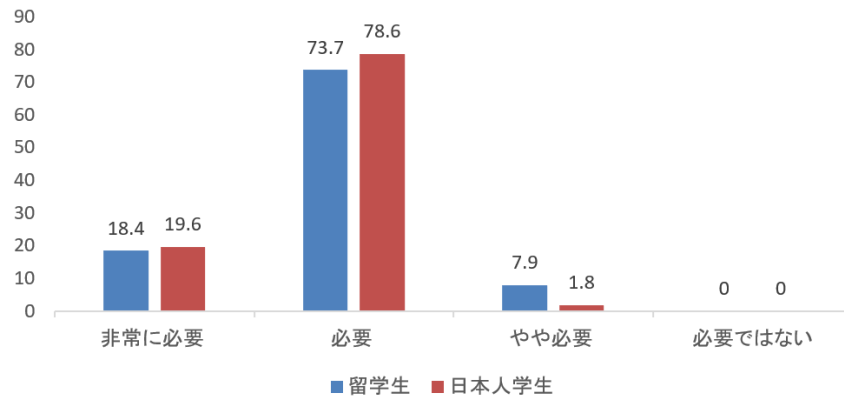


図1 日常会話におけるメタファー表現の重要性

結果として、留学生も日本人もメタファー表現の使用は重要な役割を果たしていることが分かった。その中で、「必要」と回答した学生の割合が最も高く、留学生が73.7%、日本人学生が78.6%であった。これは、文化や言語背景が違うにもかかわらず、メタファー表現が日常会話において重要であるという共通認識が存在することを示している。一方で、「必要ではない」と回答した学生は一人もいなかった。次に、図1と関連した「あなたにとって、メタファー表現を利用することで、どんな利点があると思いますか」という質問には、「相手にわかりやすく伝えることができる」という回答が、留学生33名、日本人学生44名であった。このように多くの学生がメタファーを通じて複雑な内容をシンプルに伝える手段として有効であると認識していることが分かった。「説得力や共感力を高めることができる」という点においても、留学生も日本人学生も支持しており、最も多い回答数となった。

## メタファー表現を使わない会話についてどう思いますか。



図2 メタファー表現がない会話に関する考察

図2は、「メタファー表現を使わない会話についてどう思いますか」という質問に対する日本人学生と留学生の回答結果を比較したものである。まず、「非常に良い」と答えた

学生が両グループともに一人もいなかった。この点から日常会話においてメタファー表現が欠かせないものだと分かった。このような結果から、日常会話においてメタファー表現が果たす役割の重要性が浮き彫りになっている。

### 5-3. メタファー表現とその教育への応用

言語教育におけるメタファー表現の学習状況に関する質問では、日本人学生 52 名 (92.9%) は、日本人の立場から外国人留学生が日本に来る前にメタファー表現を学んでおく必要があると回答した。この数値から、多くの日本人学生がメタファー表現の理解が日本でのコミュニケーションにおいて極めて重要な役割を果たしていることが分かる。それに対し、ほとんどの留学生が、現在母国で日本語のメタファー表現を教える授業がないと答えた。この矛盾は、言語教育、すなわち日本語教育においてメタファー表現が軽視されている実態を示唆していると思われる。実際の教育現場では、語彙や文法などの基礎的な内容が優先され、メタファーのような高度な語用論的表現にはあまり焦点が当てられていないようである。

表 2：メタファー表現に関する学習状況

問 1：日本人の立場から、外国人留学生が来日する前に、メタファー表現を学んでおく必要があると思いますか。(名・%)	
必要 (52・92.9%)	必要ではない (4・7.1%)
問 2：あなたの母国では、日本語のメタファー表現を教える授業がありますか。	
ある (3・7.9%)	ない (35・92.1%)

表 2 と関連して、「日本に来る前に、留学生が日常生活でメタファーが使われる話し方を理解するために、どの方法が必要だと思いますか」という質問に、日本人学生 45 名 (80.4%) が母国の学校や大学で日本語のメタファー表現を教え始めるべきだと回答した。また、母国の大学や学校で日本人と話したり、日本語を聞いたりする機会を増やすべきだと 69.6%の日本人学生が回答した。さらに、日本から持って帰った教科書を活用し、メタファー表現の練習時間を増やすことやすべての授業を会話授業にすることなど興味深い回答もあった。

留学生にメタファー表現を教えることの重要性を認識している日本人学生のみならず、留学生もメタファー表現を教えることの重要性も認識していることが分かった。「日本に来て留学生がメタファー表現を使われている話し方を納得するには、母国ではどんな対策が必要だと思いますか。」という質問に関し、80%以上の留学生は、学校や大学でメタファー表現を教え始める必要があると答えた。さらに、ほぼ 63%の留学生が、日本語のメタファー表現と比較しながら会話することが話し言葉をよく理解するのに重要な役割を果たしていることが分かった。

## 6. 結論

本研究は、和歌山大学の日本人学生と留学生を対象に、日常会話におけるメタファー表現の理解度と使用実態を調査し、そこから得られた結果をもとに、留学生の日本語熟達度

への応用の可能性について検討したものである。調査の結果、留学生と日本人学生のいずれもメタファー表現の重要性を認識していることが分かった。しかし、留学生の多くは、母国において日本語のメタファー表現を学ぶ機会がほとんどないことも分かった。

母語と日本語のメタファーを比較しながら学ぶことで、学習者はそれぞれの言語の特性をより深く理解でき、異文化間のズレや誤解を減らすことができる。

また、調査では多くの日本人学生が「来日前にメタファー表現を学ぶべきだ」と回答しており、母国の教育機関での事前指導の重要性が強調されていた。そのため、実践的な会話授業や比較文化的アプローチを通じて、メタファー表現を体系的に学ぶ機会を提供すべきだと思われる。例えば、実際の会話やメディア（テレビ番組、広告、文学作品など）からメタファー表現を取り上げ、それがどのような場面で、どのような意図で使われているのかを分析する活動である。そのうえ、学習者自身がそのメタファーを利用してロールプレイやディスカッションを行うことで、実際のコミュニケーションの中で自然に使える力が養われると思われる。

メタファー表現を深く研究する必要はないが、ロールプレイやディスカッションを活用することで、日本の文化と母国の文化を比較しながら両言語で自然に会話ができ、留学生の会話の能力と聴解の能力の向上に役に立つかもしれない。このことから、本研究は、ベトナム人学習者を支援する方法や日本語会話力におけるメタファーの活用方法といった他の研究が生まれる前提となり、さらなる研究の発展に繋がるのではないだろうか。

## 7. 今後の課題

今後の課題としては、調査結果を分析したうえ、メタファー表現と教育に関するこれからの課題は二つあると考えられる。第一に、日本語学習者のレベルによって、メタファー表現を取り入れた教材開発と教育プログラムの整備が難しいが、必要である。第二に、学習者が実際にメタファー表現を「使える」レベルまで引き上げる指導法の確立が必要である。

(以上、5617字)

## 日本人学生向けアンケート調査項目

1. あなたはどの学部に属していますか。
2. あなたは「メタファー表現（隠喩）」というフレーズを聞いたことがありますか。
3. 「メタファー表現」はどんな場面で聞いたことがありますか。
4. あなたはどんな場面でメタファー表現を使いますか。
5. 以下の文章は、日常的な会話においてメタファー表現を使っている文章です。聞いたことがあったり、使ったりしたことがある表現を選んでください。
6. 以上のメタファー表現のほか、どんなメタファー表現を聞いたり使ったりしますか。自由に書いてください。
7. 日常会話でメタファー表現を使用することについてどう思いますか。
8. あなたにとって、メタファー表現を利用することで、どんな利点があると思いますか。
9. メタファー表現を使わない会話についてどう思いますか。
10. 日本人の立場から、外国人留学生が来日する前に、メタファー表現を学んでおく必要があると思いますか。
11. 日本に来る前に、留学生が日常生活でメタファーが使われる話し方を理解するために、次のどの方法が必要だと思いますか。
12. 日本に留学中に、留学生が日常生活でメタファー表現が使われている話し方をよく理解するために、次のどの方法が必要だと思いますか。
13. 他の新たな対策を提案しますか。自由に書いてください。

## 留学生向けアンケート調査項目

1. あなたはどの学部属していますか。
2. あなたの国籍を選んでください。
3. あなたは「メタファー表現（隠喩）」というフレーズを聞いたことがありますか。
4. 「メタファー表現」はどんな場面で聞いたことがありますか。
5. あなたはどんな場面でメタファー表現を使いますか。
6. 以下の文章は日常的な会話においてメタファー表現を使っている文章です。聞いたことがあったり、使ったりしたことがある表現を選んでください。
7. 以上のメタファー表現のほか、どんなメタファー表現を聞いたり使ったりしますか。自由に書いてください。
8. 日常会話でメタファー表現を使用することについてどう思いますか。
9. あなたにとって、メタファー表現を利用することで、どんな利点があると思いますか。
10. メタファー表現を使わない会話についてどう思いますか。
11. あなたの母国では、日本語のメタファー表現を教える授業がありますか。
12. 日本に来る前に、日常的な会話の中でメタファー表現を使用する言葉や話し方を事前に調べましたか。
13. 日本に来たとき、他の人が何を言っているのか理解できないのは、話者が暗示的な表現（メタファー表現など）を使っているからだだと思いますか。

14. 以上のメタファー表現を通して、あなたは日本人の日常的な会話を理解しやすくなりましたか。
15. 日本に来る前に、母国の学校や大学では学生に日常会話の中でよく使われているメタファー表現を教えることは必要だと思いますか。
16. 日本に来て留学生がメタファー表現を使われている話し方を納得するには、母国ではどんな対策が必要だと思いますか。
17. 他の新たな対策を提案しますか。自由に書いてください。

## 参考文献

- 1) 杉本巧 (2016) 『会話をデータとするメタファー研究の意義と展望』 pp152  
<[https://hirokoku-u.repo.nii.ac.jp/record/53/files/cadi01\\_151.pdf](https://hirokoku-u.repo.nii.ac.jp/record/53/files/cadi01_151.pdf)> (参照日 2025/1/30)
- 2) 伊東美津 (2010) 『若者ことばと比喻』 p2  
<<https://kiu.repo.nii.ac.jp/record/332/files/KJ00007867441.pdf>> (参照日 2025/1/30)
- 3) NLP—JAPAN ラーニング・センター 「事例付き」 あなたの表現力を高め、説得力や影響力を高める NLP の 4 つのメタファーとは」 (2024/7/05)  
<<https://www.nlpjapan.co.jp/nlp-focus/metaphor.html>> (参照日 2025/1/28)
- 4) 最上英明 (1994) 「香川大学学術情報リポジトリ」 『メタファーと認知』 p79  
<[https://kagawa-u.repo.nii.ac.jp/record/1815/files/AN00038157\\_46\\_71.pdf](https://kagawa-u.repo.nii.ac.jp/record/1815/files/AN00038157_46_71.pdf)> (参照日 2025/5/17)
- 5) 小野寺 美智子 (2018) 『時間メタファーへの認知的アプローチ —日本語の時間表現を中心に—』 pp24 <[https://takushoku-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=69&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=21](https://takushoku-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=69&item_no=1&page_id=13&block_id=21)> (参照日 2025/7/13)
- 6) 田中 聡子 (2002) 『「口」の慣用表現 —メタファーとメトニミーの相互作用—』 pp9 <<https://www.lang.nagoya-u.ac.jp/nichigen/issue/pdf/3/3-01.pdf>> (参照日 2025/7/03)

2025年8月4日提出  
日本語日本文化研究 A (2025 年前期木曜 4 限)  
長友文子先生

『また同じ夢を見ていた』  
— 直喩表現における主人公の人生観 —

日本語・日本文化研修留学生  
出身大学の大学名：ブラウイジャヤ大学  
学籍番号：C2410013  
氏名：ランガジュノアジクレスワント

# 目 次

1. はじめに.....	- 1 -
2. 直喩表現の先行研究.....	- 1 -
3. 研究方法.....	- 2 -
4. 分析：直喩表現と主人公の人生観.....	- 2 -
5. 考察とまとめ.....	- 7 -
参考文献.....	- 7 -

## 1. はじめに

文学作品における比喩表現は、登場人物の感情や世界観を具体化し、読者に豊かなイメージを与える重要な修辞技法である。特に直喩表現は、「～ようだ」「～みたい」「まるで～のように」などの明示的な喩標を用いて、抽象的な概念を視覚的かつ具体的に描写する方法として効果的である。例えば、「人生とは給食みたいなものだもの」という文では、「～みたいなもの」が明示的な指標であり、「人生」がたとえられるもの（本義）、「給食」がたとえに使われるもの（喩義）である。

しかし、日本語学習者にとって比喩表現の理解は難解であり、直喩の形式や意味の把握には一定の困難を伴う。また、直喩が文学作品内でどのように人物描写や主題表現に寄与しているのかについては、学習教材としての分析がまだ十分に行われていない。

中村（1977）は、日本語の比喩表現に関する理論的枠組みを提示し、直喩と隠喩の違いを文法的・機能的に整理した。また、菊地（2022）は、日本語学習者の視点から「よう」「まるで」「みたい」などの喩標が直喩の典型的な形式として頻繁に使用されていることを示し、比喩表現がどのように理解されるかについて分析している。これらの研究は、比喩表現の分類や形式、頻出要素の特定に大きく貢献している。しかしながら、これらの先行研究は主に比喩表現の理論的分類や出現頻度に焦点を当てており、特定の文学作品における直喩表現がどのように登場人物の内面や価値観を描写しているかという観点からの具体的な分析は限定的である。特に、若者向けの小説や日本語学習者に適した平易な文体を用いた作品における比喩表現の意味機能については、十分な検討がなされていない。

本研究は住野よるの小説『また、同じ夢を見ていた』を対象に、主人公・小柳奈ノ花の発話に含まれる直喩表現を分析する。特に「ようだ」「まるで」「みたい」といった喩標を用いた直喩に着目し、それらがどのようにして主人公の人生観や価値観を形成し、物語全体にどのような意味の効果を与えているのかを明らかにすることを目的とする。

## 2. 直喩表現の先行研究

直喩表現については多くの研究が行われている。中村（1977）は、直喩とは喩える物事と例えられる物事をはっきり区別して提示する表現であると述べている。文中には「あたかも・さながら・まるで」や「みたい・よう」などの指標が含まれることが多く、これらの表現によって、比喩であることが容易に意識される。

さらに、菊地（2022）は、直喩が成立するメカニズムや構文的特徴を詳細に論じている。彼は、直喩における助動詞「ようだ」「みたいだ」や副詞「まるで」「あたかも」「さながら」などの形式が、発話者の主観的なイメージに「確からしさ」を与える働きを持つことを指摘している。たとえば、「ようだ」は客観的な根拠に基づくイメージを共有するための形式であり、一方「みたいだ」は主観的な認識に基づいたイメージを表現するために選ばれる傾向がある。また、「まるで」は比喩内容に対する強い確信を表している。

このように、直喩表現は比喩性が明示されることで理解しやすく、文法形式の選択によってニュアンスや心理的態度を柔軟に表現できると考えられる。文法形式だけでなく、修辞的として重要な役割を果たしている。野内（2005）によれば、比喩表現には主に二つの修辞的役割がある。第一に、聞き手（読み手）に強い印象を与えること（強調）、第二に、わかりにくいものを身近な例で具体的に説明すること（例示）である。これにより、直喩は抽象的な概念や感情を、読者にとって身近で具体的なイメージによって表現し、理解と

共感を促す効果的な言語手段となる。

### 3. 研究方法

本研究では、住野よるの小説『また、同じ夢を見ていた』を対象として、主人公・小柳奈ノ花の発話に含まれる直喩表現の分析を行った。特に、「ようだ」「みたい」「まるで」などの喩標を含む直喩表現を抽出し、比喩の構造的特徴と意味的効果の考察を目的とした。

比喩表現には、直喩、隠喩、擬人法、換喩などの種類がある。このうち、直喩は、喩標を明示的に用いる点に特徴があり、構文的にも学習者にとって理解しやすい形式である。本研究における「直喩表現」は、中村（1977）の分類に基づき、「～ようだ」「～みたいだ」「まるで～のように」などの明示的な喩標を用いて、ある対象を他のものにたとえる表現と定義する。

本研究では、これらの比喩表現のうち、中村（1977）の定義に基づいて直喩表現のみを取り上げ、分析を行う。特に、主人公・小柳奈ノ花の発話に含まれる直喩表現に限定し、その中でも「人生」の抽象概念に関わる表現を対象として考察を行った。

### 4. 分析：直喩表現と主人公の人生観

本研究では、『また、同じ夢を見ていた』の小説内で主人公が「人生」という概念を表現する直喩表現を引用する。

(1) ひとみ先生：「そう。今日は先生が残しちゃったけど、明日からは皆と一緒に帰るのも楽しいから、やってみなさい」

小柳なのか：「考えておくわ。でもね、先生」

私は貰ったチョコレートを口に放りこんで先生に教えてあげます。

小柳なのか：「人生とは、素晴らしい映画みたいなものよ」

先生は楽しそうに少し首を傾げます。この手のことを私はよくひとみ先生に言うんだけど、先生はいつもちゃんと考えてくれます。そして大体、的外れなのです。

ひとみ先生：「うーん、あなたが主人公ってこと？」

小柳なのか：「違うの」

ひとみ先生：「えー、降参。どういう意味？」

小柳なのか：「お菓子があれば、一人でも十分楽しめるってことよ」

(また同じ夢を見ていた、p:7)

上記の会話において、ひとみ先生は主人公の小柳なのかに友達と一緒に帰ると楽しいと提案したが、小柳はすぐに賛成せず、「人生とは、素晴らしい映画みたいなものよ」という直喩表現を用いる文を応じた。その後の会話で、小柳が「お菓子があれば、一人でも十分楽しめるってことよ」と述べている。

この発言から、小柳の人生観や人間関係に対する考え方がみえてくる。小柳は他者との交流より、一人の時間に価値を見出し、それを楽しむことを重視している。つまり、小柳にとって「楽しさ」は、他者との関係性によって生まれるものではなく、身近なものの中に見つけることができるものである。ここで注目すべきは、お菓子という具体的なものを例えに用いている点だ。お菓子は、日常の中の小さな幸せを象徴している。小柳の考えでは、人生においても、小さな幸せを見つければ、それだけで十分楽しめると考えられる。

(2) 小柳なのか：「アバズレさんもおばあちゃんもいないっていうのは珍しいわね」  
猫：「ナーナー」

彼女は食べものが貰えないことを悲しんでいるようでした。

小柳なのか：「悲しんでばかりもいられないわ。人生とは給食みたいなものだもの  
の」

猫：「ナー」

小柳なのか：「好きなものがない時でも、それなりに楽しまなくちゃ。そう  
でしょ？」

(また同じ夢を見ていた、p:43)

ここでは、人生を給食媒介として例える。給食というのは、個人の好みに関係なく、決められたメニューが提供されるものだ。好きな料理の日もあれば、そうではない日もある。しかしそれを理由にして食べないという選択肢は基本的にはないため、出されたものを受け入れて、それなりに楽しむしかないという性質を持っている。小柳はここで、人生もまた「給食」と同じで、思い通りにならないことがあっても、その中で楽しむことが大切だという考えを示している。

さらに、小柳は「好きなものがない時でも、それなりに楽しまなくちゃ」と言っている。これはつまり、「人生は必ずしも自分の望むように進むわけではないが、それを悲観するのではなく、与えられた環境の中で楽しむべきだ」という意味である。この発言は、彼女が「人生の楽しみ方」を自分自身で見つけることを大切にしていることを示している。

(3) 小柳なのか：「ハックはすぐ読み終わるわ！ そしたら南さんの物語を読ませて  
ね」

南さん：「別に忘れてくれていいよ」

小柳なのか：「いいえ、忘れない。人生とは冷蔵庫の中身みたいなものだもの」

南さん：「んだ、そりゃ」

小柳なのか：「嫌いなピーマンのことは忘れても、大好きなケーキのことは絶対に忘れないの」

南さんは唇の端で息を抜くように笑って、それから「偉そうなガキ」と言いました。

(また同じ夢を見ていた、p:59)

ここで小柳は、人生を「冷蔵庫の中身」に例える。冷蔵庫の中身は、好きなものも嫌いなものも混在しているが、人は自分が好きなものを選び、嫌いなものは無視したり忘れていたりする傾向がある。この直喩は、人生においても人は自分にとって大切なことや好きなことを記憶し、そうではないことを忘れがちということを示している。小柳は、人生において「好きなもの」や「大切なもの」を重視し、それらを忘れないようにしている。これは、彼女が人生を前向きに捉え、ポジティブな感情を大切にしている姿勢を示している。

(4) 南さん：「私のことなんか知らなくていいよ」

小柳なのか：「そんなことないわ。人生とは和風の朝ごはんみたいなものなの  
よ」

南さん：「なんだそりゃ」

小柳なのか：「知る必要のないことなんてないの」

南さんは少し考えてから、「味噌汁か」と言い、それから「偉そうに」とも言いました。

(また同じ夢を見ていた、p:63)

和風の朝ごはんには、ごはん、味噌汁、焼き魚、漬物、納豆など、多くの品目が含まれる。それらはすべてが調和し、一つの食事として成立しているのが特徴だ。南さんが「味噌汁か」と返したのは、和風の朝ごはんの中でも特に欠かせない存在である「味噌汁」に焦点を当てたからだろう。味噌汁は日本の伝統的な食事において中心的な役割を果たし、「シンプルだが奥深いもの」としての象徴性を持っている。

どの料理も「必要ないもの」ではなく、それぞれに役割があるという点が重要だ。和風の朝ごはんのすべての品目が意味を持つように、小柳は人生において無駄なものや知る必要のないことなど存在しない、人生におけるすべての経験や知識には価値があるという考えを、この比喩を通じて表現している。

(5) 小柳なのか：「私、このお話を皆にも読んでほしいわ」

南さん：「やだよ。第一、読んでくれる人なんていない」

小柳なのか：「もったいないわよ。こんなに素晴らしい物語、たくさんの人に読んでもらわなくちゃ。人生とは昼休みみたいなものよ」

南さん：「お弁当が美味しいねってか？」

小柳なのか：「時間が決まっているの、その時間の中で素敵なものに触れなきゃ。私は皆の四十五分でこの南さんのお話を読んでほしいわ」

(また同じ夢を見ていた、p:79)

この会話において、小柳なのかは「昼休み」という比喩を使って人生について語っている。彼女は、人生を昼の短い休憩時間のような限られた期間と捉えており、その時間の大切にし、有意義に過ごすべきだと考えている。このような考え方は、人生を美しく価値のあるもので満たすことの重要性を強調している。

小柳は「皆の四十五分でこの南さんのお話を読んでほしいわ」と語っており、限られた時間の中で感動や意味のあるものに触れることの大切さを示している。ここで「昼休み」という比喩は、人生の短さだけでなく、その中で他者と関わりながら、価値あるものに目を向ける態度を象徴していると考えられる。南の物語を「皆に読んでもらいたい」という願いは、人生において共有や共感が重要であるという彼女の人生観を反映している。

(6) 私はまぶたから目の玉が落ちてしまうんじゃないかと思うくらい感心しました。やっぱり、アバズレさんは私よりずっとずっとかしこいです。だけど、そんなアバズレさんでも、南さんがいなくなった秘密については、何も分からないようでした。だから南さんのことは、本当に不思議なことなのだと思います。

小柳なのか：「人生とは、スイカみたいなものよね」

アバズレ：「どういう意味だい？」

小柳なのか：「ほとんどの部分は噛んで飲み込めるのに、食べてると口の中じゃちょっとだけ飲み込めない部分が残るの」

アバズレ : 「あははっ、そうだね、だけど飲み込めなくてもどこかに埋めたら芽が出てくるかもしれない」

(また同じ夢を見ていた、p:119)

この会話において、小柳は人生をスイカに例える。スイカはほとんどの部分を美味しく食べることができるが、種は飲み込めないものがどうしても残ってしまう。

この場面では、南さんがいなくなった秘密について何も分からないという状況が描かれている。そのため、人生においても理解できることが多い一方で、どうしても分からないことや納得できないことが存在する。人生は理解できないことがあるのは避けられないが、アバズレの返答が示すように、飲み込めなくてもどこかに埋めたら芽が出てくるかもしれないという考えを持ち、未解決の疑問や知らない出来事をほっておくのではなく、考え続けければ、いつか何かの形で意味を持つ可能性があるということがわかる。

(7) 小柳なのか : 「難しいのね」

算数や理科よりずっと、そう思いました。

アバズレ : 「ま、今は結婚しない人なんてたくさんいるしね」

小柳なのか : 「私も、大人になっても結婚なんてしない気がするわ。人生とは、  
ベッドみたいなものよね」

アバズレ : 「どういう意味？」

小柳なのか : 「寝るだけなら、シングルで十分」

(また同じ夢を見ていた、p:131)

ここで、小柳なのかは「人生」を「ベッド」に喩えた。結婚は大人になったら当然のように期待されるものだが、主人公は自分が大人になっても結婚しないかもしれないと述べており、自立した姿勢や常識にとらわれない考え方を示している。シングルベッドは一人での生活を象徴している。彼女の発言では、「一人で生きること」は欠点ではなく、十分であり、むしろ快適であると考えている。

これは、奈ノ花の年齢以上に成熟した性格を反映しており、人生を実用的かつ内省的な視点から捉えることができることを示している。この考え方は非常に深いものであるにもかかわらず、その表現方法は軽やかで少しユーモラスである。

(8) 小柳なのか : 「いい、桐生くん。私はあなたの味方よ。敵だったことなんて一度もないわ。だから、安心して学校に来て」

桐生 : 「……………」

小柳なのか : 「桐生くんは勘違いしているかもしれないけど、私は桐生くんの味方なの。嫌なことがあるんだったら、ひとみ先生や私が、一緒に戦ってあげるわ。だけど桐生くんも戦わなきゃいけない。だって、人生ってリレーの第一走者みたいなものだもの。自分が動きださなきゃ、何も始まらない」

桐生くんは相変わらず何も言いません。

小柳なのか : 「今日は、それを伝えに来たの」

(また同じ夢を見ていた、p:178)

リレーの第一走者が走り出さなければ何も始まらないように、人生でも自分から行動を起こすことが必要であると彼女は語る。この比喩は、「誰かに助けてもらうこと」も大切

だが、「まず自分が動き出すこと」が人生の出発点であるというメッセージを含んでいる。

この発言は、奈ノ花が桐生くんを励まそうとする場面で使われており、彼女の優しさと内面的な成長を表している。奈ノ花は、自らの人生観をわかりやすく伝えるために、リレーという身近な題材を用いており、読者に勇気と行動の大切さを訴えかけている。

(9) 小柳なのか：「ねえ、私、これからここに来るわ。だから、絵の描き方を教えてよ。桐生くんみたいな絵を描けるようになって、小学校にどれだけ行ってもなれないわよ」

気づいちゃったのです。

小柳なのか：「代わりに私は、そうね、何を教えてあげようかしら。人生とは、隣の席みたいなものでしょ？」

桐生：「……………」

味方が欲しいのは、私だった。

小柳なのか：「持ってない教科書があるならお互いに見せ合わなきゃ。それにそうね、毎日見る顔なんだから、嫌いな子じゃない方がいい」

(また同じ夢を見ていた、p:231)

小柳なのかは「人生とは、隣の席みたいなものでしょ？」という直喩を使い、人生における人とのつながりの重要性を表現している。隣の席の子とは、教科書を見せ合ったり、毎日顔を合わせたりと、自然と関わることになる存在である。奈ノ花はそれを人生にたとえ、「持ってない教科書があるならお互いに見せ合わなきゃ」と述べ、支え合いの大切さを強調している。

さらに、「毎日見る顔なんだから、嫌いな子じゃない方がいい」という言葉からは、他者との関係性を円滑に保つことが人生をより良くするという考えがうかがえる。この比喩表現は、奈ノ花が桐生くんと距離を縮めようとする優しさと、彼女の成熟した人生観を示している。

(10) 猫：「ナー」

いつの間にか起きていた彼女が、足元で眉間に皺を寄せながらこちらを見ていました。

小柳なのか：「何？ せっかくのデートなのにリュックはやめろって？ いいの、人生ってリュックみたいなものだから」

猫：「ナー」

小柳なのか：「背負うものがあつたほうが、背筋も伸びるの。それにランドセルみたいで大好き」

(また同じ夢を見ていた、p:294)

この直喩では、リュックが人生の「重さ」や「責任」、「経験」などを象徴している。奈ノ花は、それらを避けるべきものではなく、自分を成長させる大切なものとして前向きに捉えている。

さらに、「ランドセルみたいで大好き」という言葉からは、人生の重みさえも楽しもう

とする彼女の柔軟で明るい姿勢がうかがえる。この比喩表現は、奈ノ花の成熟した人生観と共に、困難を受け入れながら生きる強さを象徴している。

## 5. 考察とまとめ

直喩表現(1)から(10)にかけて、小柳なのかの人生観は段階的に変化し、成熟していく様子が明らかとなった。初期の段階では、他者との関係よりも「自分自身の楽しさ」や「一人でも満足できる生き方」に価値を見出していた(例:映画、給食、冷蔵庫)。中盤にかけては、人生を時間の流れや積み重ね、あるいは理解しきれないことも含んだものとして受け入れる柔軟な姿勢が表れている(例:スイカ、和風の朝ごはん、昼休み)。

そして終盤では、奈ノ花の視点は他者との関係性へと移行し、協力や共感、責任感といった「他者とともに生きること」や「自ら行動することで人生を切り開いていくこと」の重要性を、直喩を通じて表現するようになる(例:リレー、隣の席、リュック)。このように、奈ノ花の人生観は、自立 → 受容 → 共感と責任感というプロセスを経て、徐々に成熟していったと考えられる。

また、小柳なのかは「人生」という抽象的な概念を理解し伝えるために、日常生活で親しみのある具体的な対象(映画、給食、スイカなど)を用いた直喩表現を多用している。彼女の比喩は、子どもらしい素直な発想と鋭い観察眼に基づきながらも、深い意味を含んでいる点が特徴的である。

特に注目すべきなのは、直喩表現を通して、自身の感情や価値観を遠回しに、しかし自然な形で伝えている点である。「寂しい」「つらい」などの感情を直接的に語るのではなく、ベッドやリュック、隣の席などにたとえることで、自立心・他者への信頼・人生への向き合い方を象徴的に表現している。

本研究では、小柳なのかによる直喩表現に限定し、その人生観の変化を分析した。しかし、本作には直喩以外にも隠喩や擬人法などの比喩技法が豊富に用いられており、特にアバズレさんやおばあさん、ひとみ先生といった他の登場人物による表現も、奈ノ花の人生観の形成に大きな影響を与えている可能性がある。

さらに、直喩表現が読者に与える感情的・心理的影響についての読者反応分析や、日本語母語話者と非母語話者との間の解釈の差異に関する研究も、今後の課題として検討する価値があるだろう。

(以上、7946字)

## 参考文献

- 1) 住野よる(2024)『また、同じ夢を見ていた』株式会社双葉社
- 2) 菊地礼, & キクチレイ. (2022)『現代日本語における直喩の構文論的研究』中央大学 (Doctoral dissertation, Chuo University)
- 3) 瀬戸賢一 (2002)『日本語のレトリック』岩波書店
- 4) 中村明 (1977)『比喩表現の理論と分類』(国立国語研究所報告 57) 東京:秀英出版
- 5) Lakoff, G., & Johnson, M. (1980)『Metaphors We Live By』University of Chicago Press
- 6) 野内良三 (2005)『日本語修辞辞典』株式会社国書刊行会

2025年8月7日提出  
日本語・日本文化研究 A (2025年前期木曜 4 限)  
長友文子先生

専門用語としての  
「やさしい日本語」の認知・理解  
・使用の難しさに関する比較調査  
— 日本人と日本語学習者  
の視点から —

日本語日本文化研修留学生  
大学名：カセサート大学  
学籍番号：C2410012  
氏名：トーンレックウィパーウィー

# 目 次

1. はじめに .....	1
2. 先行研究 .....	1
3. 「やさしい日本語」の定義 .....	2
3.1 「やさしい日本語」とは .....	2
3.2 特徴と役割 .....	2
3.3 コミュニケーションのバイパスとしての役割 .....	3
3.4 多文化共生社会における役割 .....	3
4. 研究方法 .....	4
4.1 調査目的 .....	4
4.2 調査方法 .....	4
4.3 調査分析 .....	4
4.4 属性情報の分析 .....	5
5. 結果と考察 .....	7
5.1 認知・理解に関する分析 .....	7
5.2 使用経験と実践に関する分析 .....	8
5.3 難易度に関する分析 .....	12
5.4 やさしい日本語に対する意識と受け止め方 .....	12
5.5 必要性和有用性に関する分析 .....	13
6. 終わりに .....	15
参考文献 .....	15
アンケート内容 .....	16

## 1. はじめに

日本における外国人住民が増えているため、異なる言語を持つ人々との円滑なコミュニケーションがますます重要になっている。出入国在留管理庁（2024）によると、令和6年12月末現在における在留外国人数は376万8,977人となり、前年末（341万1,000人）に比べ、35万7,977人（10.5%）増加したという。このような状況において、行政・医療・防災の現場などで言語的支援が求められており、「やさしい日本語」の必要性が指摘されている。

「やさしい日本語」は1995年の阪神・淡路大震災を契機に提唱され、災害時に外国人に対して必要な情報を迅速かつ的確に伝えるための手段として発展してきた（庵，2003）。その後、文化庁（2022）などをはじめ、多くの自治体が普及・啓発に取り組んでいる。

一方で、「やさしい日本語」は「やさしい」という名前に反して、「実際に使ったり作成したりするのは難しい」と感じる日本人も多い。特に、日本語母語話者にとっては、専門用語や複雑な表現を簡潔に言い換えたり、相手の理解を想定して言葉を選んだりすることに戸惑いを覚えることもある。

本研究では、「やさしい日本語」が日本人にとって本当に“やさしい”ものなのか、また、日本語学習者にとってどのように理解されているかに注目し、双方にアンケート調査を実施する。その結果を通して、「やさしい日本語」に対する認知度、接触経験、理解度、実践意識などを明らかにする。なお、本研究で扱う「やさしい日本語」の“難しさ”とは、使用時に感じる心理的・言語的な困難を意味する。得られた知見は、今後のやさしい日本語に関する啓発活動や教育・研修の設計に活かすとともに、行政担当者、教育関係者、日本語支援者などが現場で「やさしい日本語」をより効果的に活用するための資料として役立てられることを期待する。大学内の発表会などの場で本調査の結果を紹介する予定であり、将来的には、教育現場や日本語学習者の支援に関わる機会があれば、本レポートの内容を活かして貢献していきたいと考えている。また、もし機会があれば、本調査の結果をもとに資料を作成し、「やさしい日本語」の重要性について多くの人に知ってもらえるよう発信していきたい。

## 2. 先行研究

庵（2014）は、「やさしい日本語」には3つの機能（「補償教育」「地域社会における共通言語」「地域型初級」）があることを指摘した。これらの機能からも、「やさしい日本語」が多様な場面で活用できることが分かる。

また、小池博美（2021）は、「やさしい日本語」は日本語母語話者にとって「実際に使ったり作成したりするのは難しい」と感じる場合もあると述べており、「非母語話者との接触機会の少ない母語話者にとって容易に使いこなせるというものではない」と指摘している。その実践には高度な配慮と表現力が求められるとされている。

さらに、出入国在留管理庁（2022）の『やさしい日本語の手引き』では、この表現が災害、行政、医療、教育、観光など多様な分野で活用されていて、文を短くする、難しい言葉を避けるといった工夫が重要とされている（出入国在留管理庁，2022，p.6）。同庁

は「やさしい日本語」を使う際に意識すべき14のルールも提示していて、「難しい言葉をやさしい言葉に言いかえる」「一文を短くする」「主語を省略しない」などの具体的な指針が示されている（出入国在留管理庁, 2022）。

これまでの研究では、「やさしい日本語」は外国人への支援に有効とされる一方、日本語母語話者にとっては実践が難しいとの指摘がある。また、日本人または外国人のどちらか一方に偏った視点が多く、両者を比較した研究は少ない。

そこで本研究では、日本人と日本語学習者の両方を対象にアンケート調査を実施し、「やさしい日本語」に対する認識や理解、使用時の難しさについて比較・分析を行う。特に、質問項目の一部は出入国在留管理庁（2022）が提示した「やさしい日本語」の14のルールに基づいて構成する。

### 3. 「やさしい日本語」の定義

#### 3.1 「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、日本語を母語としない人にも理解しやすいように語彙や表現を簡単にした日本語である（文化庁, 2022）。この表現は、難しい言葉を簡単な言葉に言い換えたり、一文を短くしたりするなどの工夫を加えて、外国人にも分かりやすくしたものとされている（出入国在留管理庁, 2022）。

この概念が注目され始めたのは、1995年の阪神・淡路大震災をきっかけとする。当時、多くの外国人住民は日本語による災害情報を十分に理解できなかったため、避難が遅れた例が報告された。この反省をもとに、弘前大学の佐藤和之氏らが中心となって「やさしい日本語」の研究と実践を始めたとされている（庵, 2003）。

庵（2003）は、「やさしい日本語」が日本語母語話者にとっても「やさしい」ものではないとし、その運用の難しさと意義を指摘している。また、庵（2016）は、それを通して日本語話者自身が言葉を見直し、コミュニケーションにおける配慮を深める機会にもなると述べている。

#### 3.2 特徴と役割

文化庁（2022）が示す「やさしい日本語」の14のルールには、簡単な語彙の使用、短く明確な文章、主語の明示、肯定表現の使用、指示語を避けることなどが含まれる。これらは、外国人に限らず、日本語に不慣れな人々や高齢者にも伝わりやすい言葉のあり方である。たとえば、「施行する」という語は「始める」に、「提出してください」は「出してください」に言い換えることが求められる。また、「これを記入してください」ではなく「この用紙に名前を書いてください」のように、具体的に示すことも重要である（文化庁, 2022）。

肯定形の使用も大きなポイントであり、「しないでください」より「してください」のほうが伝わりやすく、二重否定はなるべく避けるよう推奨されている（文化庁, 2022）。こうしたルールをもとに作成された「やさしい日本語」は、防災、行政、医療、教育などの場面で使用されており、特に災害時には迅速で正確な情報伝達手段として活用されている（庵, 2003）。

### 3.3 コミュニケーションのバイパスとしての「やさしい日本語」

「やさしい日本語」は、多言語翻訳や通訳を介さず、日本語を簡単にすることで外国人と直接コミュニケーションを図ることができる「バイパス」としての役割を果たしている（庵，2016）。これは特に災害時などの緊急時において重要である。限られた時間で、必要な情報を多言語で用意するのは現実的ではなく、日本語しか話せない人でも「やさしい日本語」で伝えることができれば、それは有効な代替手段となる（庵，2003）。

文化庁の調査（文化庁，2022）によると、外国人が日本で情報を受け取る手段として、「やさしい日本語」は他の多言語対応よりも高く評価されている。特に日本語を勉強中の外国人にとっては、英語よりも「やさしい日本語」の方が理解しやすく、安心感があるという意見も多い。

また、東京都や自治体では、「やさしい日本語」で書かれた案内や説明書を使用し、窓口業務や防災訓練に活用している（東京都生活文化局，2020）。こうした取り組みは、通訳がない場面でも情報を伝える手段として大きな効果を発揮している。

和歌山大学では、留学生や日本人学生向けに、やさしい日本語で防災ハンドブックを作成した。地震や台風、火事などの災害時に必要な行動や備えについて、ふりがな付きのやさしい表現やイラストで説明しており、通訳がない場面でも役立つ実践的な情報源となっている（和歌山大学，2021）。

### 3.4 多文化共生社会における「やさしい日本語」の役割

出入国在留管理庁（2024）によると、令和6年末（2024年12月）現在の在留外国人数は376万8,977人となり、前年末（341万992人）と比べて35万7,985人（10.5%増）と過去最高を記録している。こうした状況において、「やさしい日本語」は異なる文化的背景を持つ人々が共に暮らす「多文化共生社会」の実現に不可欠な存在として、ますます重要性を増している。たとえば横浜市や川崎市では、行政のホームページに「やさしい日本語」版の生活・災害情報を設置してわかりやすく発信しており、医療現場でも医師が専門用語を避けてやさしい表現を用いることで、外国人患者との意思疎通促進に役立っている（東京都生活文化局，2020）。さらに、学校教育の現場でも「やさしい日本語」は活用されている。日本語指導が必要な児童・生徒に対して、先生が授業内容をやさしく言い換えたり、学校だよりを平易な表現で伝えたりすることで、言葉の壁を超えた教育の実現に貢献している（文化庁，2022）。

庵（2016）は、「やさしい日本語」は単なる外国人支援のための手段にとどまらず、日本語母語話者自身が「伝える力」を見直す機会にもなると述べている。言葉を選ぶことの重要性、相手への配慮の姿勢を育む点で、「やさしい日本語」は多文化共生社会における「共通言語」としての機能を持ちうる。

東京や横浜などの外国人が多く住む地域では、「やさしい日本語」を使った情報発信や支援の取り組みが進んでいる。一方、外国人があちこちに住んでいる和歌山県でも、和歌山大学が留学生や日本人学生向けにやさしい日本語で防災ハンドブックを作るなど、地域に合わせた取り組みが行われていて、こうした支援は都市だけでなく地方にも広がっていることが分かる。

## 4. 研究方法

### 4.1 調査目的

本研究の目的は、「やさしい日本語」に対する日本人および日本語学習者の認知、理解、使用経験、そして使用に関する難しさの感覚を比較し、その違いや共通点を明らかにすることである。

具体的には、以下の点に焦点を当てている：

1. 日本人と日本語学習者が「やさしい日本語」についてどの程度知っているか（認知度）
2. 実際に見聞きしたことがあるか、どのような場面で接触したか（接触経験）
3. 「やさしい日本語」の14のルールに対する理解度と、実践のしやすさに対する自己評価（理解度・実践力）
4. 「やさしい日本語」を使いたい／使ってほしいという気持ちや、その有用性への評価（意識・態度）
5. 「やさしい日本語」が難しいと感じるかどうかという感覚（難易度）

こうした背景を踏まえ、本調査が「やさしい日本語」についての理解を深めるきっかけとなり、今後の活用や普及を考える際の参考になればと考えている。

### 4.2 調査方法

本調査は、「やさしい日本語」に関する日本人および日本語学習者の認知度、使用経験、評価、ルールへの理解および実践意識などを把握することを目的として実施された。

- 調査対象：日本人50人と日本語学習者45人のあわせて95人
- 実施方法：Google フォームを用いたオンラインアンケート
- 回答期間：2025年4月24日～5月15日
- 質問数：全29問（基本情報＋日本人・外国人別質問を含む）
- 回答形式：選択式を中心に、一部自由記述あり

### 4.3 調査分析

本調査では、以下の方法でデータを分析する：

- 単純集計（%表示）
- 自由記述の内容整理 自由記述欄に書かれた内容を分類し、共通する意見や特徴的な表現を抽出することで、質的な傾向も把握する。

本研究では、アンケート調査の結果に基づき、「やさしい日本語」に対する日本人と日本語学習者の認知・理解・使用経験・難易度・意識について分析を行った。質問項目を以下の5つの観点に分類し、それぞれの観点から比較分析または個別分析を行った。

#### 分析観点別の質問と対象グループ一覧

分析観点	対象質問	内容	回答者グループ
1. 認知・理解に関する分析	Q1/Q1	やさしい日本語の認知度	日本人・日本語学習者
	Q2/Q2	専門用語としての理解度	日本人・日本語学習者
	Q3/Q3	やさしい日本語を見聞きした場所	日本人・日本語学習者

2. 使用経験と実践に関する分析	Q4	やさしい日本語の使用経験	日本人のみ
	Q5/Q6	やさしい日本語の14ルールに関する比較分析	日本人・日本語学習者
	Q5	日本人にしてほしい言語	日本語学習者のみ
	Q8/Q7	言い換え問題	日本人・日本語学習者
3. 難易度に関する分析	Q8/Q9	やさしい日本語は難しいと感じるか	日本人・日本語学習者
4. やさしい日本語に対する意識と受け止め方	Q7	日本語学習者にやさしい日本語を使いたいのか	日本人のみ
	Q5	日本人にやさしい日本語で話された時の印象	日本語学習者のみ
5. 「必要性」と「有用性」に関する分析	Q6	日本語学習者と接する時に役立つか	日本人のみ
	Q10/Q9	今の社会での必要性（自由記述）	日本人・日本語学習者

#### 4.4 属性情報の分析

本調査は、日本人50名および日本語学習者45名、あわせて95名を対象に実施した。以下は、それぞれの属性に関する集計結果とその傾向である。

表1 日本人回答者の年齢

年齢層	人数	割合
18歳以下	4人	8%
19～25歳	26人	52%
26～35歳	8人	16%
36～45歳	4人	8%
46～55歳	8人	16%
56歳以上	0人	0%

表1の年齢層では、「19～25歳」が全体の52%（26人）を占め、最も多かった。次いで「26～35歳」と「46～55歳」がそれぞれ16%（8人）であった。「18歳以下」と「36～45歳」はいずれも8%（4人）であった。「56歳以上」の回答者はいなかったことから、回答者の大半が若年層から中年層で構成されているといえる。

表2 日本人回答者の性別

性別	人数	割合
男性	28人	56%
女性	22人	44%

表2から見ると、性別は「男性」が56%（28人）、「女性」が44%（22人）であり、男女比はおおむね均等であった。「その他」や「無回答」といった選択肢を選んだ回答者はいなかった。

現在の居住地については、和歌山、大阪、東京、京都、神奈川など、近畿圏および首都圏に住む回答者が多かった。また、北海道、青森、福島、茨城、埼玉、長野、静岡、福井、鳥取、福岡など日本各地からの回答も含まれていた。加えて、海外在住と回答した者も数

名存在した。全体として、多様な地域からの回答が集まっていることが分かる。

表3 日本語学習者の年齢

年齢層	人数	割合
18～24歳	30人	66.7%
25～34歳	10人	22.2%
35歳以上	5人	11.1%

表3から見ると、日本語学習者の年齢構成では、「18～24歳」が66.7%（30人）と過半数を占めており、大学生世代が中心であることが読み取れる。「25～34歳」は22.2%（10人）であり、社会人初期層も一定数含まれていた。一方で、「35歳以上」は少数にとどまっていた。

表4日本語学習者の性別

性別	人数	割合
男性	15人	33.3%
女性	30人	66.7%

表4から見ると、性別は「女性」が66.7%（30人）と多数を占め、「男性」は33.3%（15人）であった。日本人回答者と比べると、女性の比率が男性の約2倍となっている。

表5日本語学習者の JLPT レベル

日本語能力試験レベル	人数	割合 (%)
N1	15	33.3
N2	23	51.1
N3	6	13.3
N4	1	2.2

上表のとおり、日本語学習者のうち「N2」レベルが最も多く51.1%を占め、次いで「N1」が33.3%であった。「N3」以下の学習者は少数で、「N4」は1人のみであったことから、本調査の回答者は比較的高い日本語能力を有している傾向があるといえる。

出身地については、「アジア地域」が全体の大多数を占めており、特にタイ35.6%、（16人）ベトナム22.2%（10人）、中国8.9%（4人）、韓国8.9%（4人）、インドネシア6.7%（3人）、マレーシア4.4%（2人）、ラオス2.2%（1人）、スリランカ2.2%（1人）、モンゴル2.2%（1人）、台湾2.2%（1人）と、多くの回答が東アジアおよび東南アジアから寄せられた。その他、ベラルーシ2.2%（1人）、ブラジル2.2%（1人）といったヨーロッパ・南米地域からの回答も見られた。

## 5. 結果と考察

### 5.1 認知・理解に関する分析

#### 5.1.1 「やさしい日本語」の認知度

「やさしい日本語」という言葉を聞いたことがありますか？

(日本人向け Q1 + 日本語学習者 Q1の比較)

表6 「やさしい日本語」の認知度

回答	日本人 (n=50)	日本語学習 (n=45)	差 (%)
はい	56.0% (28人)	93.3% (42人)	37.3%
いいえ	44.0% (22人)	6.7% (3人)	37.3%

表6は、「やさしい日本語」という言葉の認知度に関する回答を示している。「やさしい日本語」という言葉を聞いたことがあると答えた人は、日本人が56.0% (28人)、日本語学習者が93.3% (42人) で、日本語学習者の方が多かった。一方、聞いたことがないと答えた人は、日本人が44.0% (22人)、日本語学習者が6.7% (3人) となった。

この結果から、日本人と日本語学習者の間には認知度に大きな差があり、日本語学習者の方が「やさしい日本語」を知っている割合が高いことがわかる。

#### 5.1.2 専門用語としての理解度

「やさしい日本語」を専門用語として知っていましたか？

(日本人向け Q2 + 日本語学習者 Q2の比較)

表7 専門用語としての理解度

回答	日本人 (n=50)	日本語学習 (n=45)	差 (%)
はい、専門用語として知っている	20.0% (10人)	40.0% (18人)	20.0%
言葉は知っているが、専門用語とは知らなかった	36.0% (18人)	48.9% (22人)	12.9%
わからない	44.0% (22人)	11.1% (5人)	32.9%

表7は、「やさしい日本語」を専門用語として知っているかどうかに関する回答を示している。「やさしい日本語」を専門用語として知っていると回答したのは、日本語学習者が40.0%、日本人が20.0%であり、日本語学習者の方が高い割合を示した。一方、「言葉は知っているが、専門用語とは知らなかった」と回答した人は、両者とも一定数存在し、日本語学習者が48.9%、日本人が36.0%であった。「わからない」と回答した人は日本人が44.0%と高かったが、日本語学習者では11.1%にとどまった。この結果から、日本語学習者の方が「やさしい日本語」を専門用語として理解している割合が高く、日本人は「わからない」と回答する割合が目立ったという傾向が確認できる。

#### 5.1.3 やさしい日本語を見聞きした場所

やさしい日本語をどこで見聞きしたことがありますか？

(日本人向け Q3 + 日本語学習者 Q3の比較)

図8 やさしい日本語の見聞きした場所

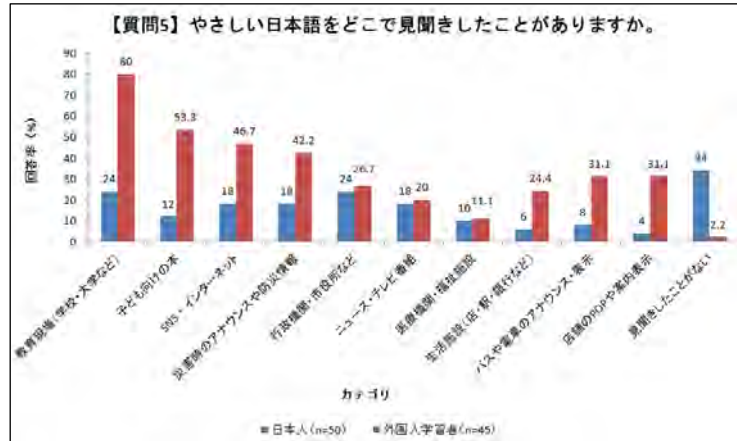


図8は、「やさしい日本語」をどこで見聞きしたことがあるかについての比較結果を示している。この質問では、「やさしい日本語」をどこで見聞きしたことがあるかについて、日本人 (n=50) と日本語学習者 (n=45) の回答を比較した。日本人では「見聞きしたことがない」と答えた人が34.0%と最も多かった。一方、日本語学習者では「教育現場(学校・大学など)」が80.0%で最多となり、「子ども向けの本」(53.3%)、「SNS・インターネット」(46.7%)、「災害時のアナウンスや防災情報」(42.2%)と続いた。また、「行政機関・市役所など」(日本人24.0%、外国人26.7%)、「ニュース・テレビ番組」(日本人18.0%、外国人20.0%)といった公共機関での認知については、両者の割合に大きな差は見られなかった。

一方、日常生活に関わる項目(医療機関・福祉施設、生活施設、バスや電車のアナウンス・表示、店舗のPOPや案内表示)では、日本語学習者が日本人よりも高い割合で見聞きしていることがわかった。

このように、日本語学習者は生活の中でやさしい日本語に触れる機会が多く、特に教育現場や日常生活の場面で認知している割合が高い。一方、日本人はその必要性を感じる機会が限られており、「見聞きしたことがない」と答える人が多いという結果となった。

## 5.2 使用経験と実践に関する分析

### 5.2.1 やさしい日本語の使用経験

やさしい日本語を実際に使ったことがありますか？ (日本人のみ Q4)

図9 やさしい日本語の使用経験





図11は、日本語学習者が「やさしい日本語」のルールの中で、最も役に立つと感じた項目の割合を示している。日本語学習者においても「難しい言葉を使わず、簡単な言葉にする」が62.2%（28人）で最も多く選ばれており、相手の話を理解しやすくするために非常に重要なルールと認識されていることがわかる。続いて「漢字にはふりがなをつける」（11.1%）、「絵や図、写真を使って説明する」（8.9%）が挙げられ、視覚的な補助や読みやすさが理解を助ける手段として意識されている。その他のルールについては選択率が低く、自分にとって直接「わかりやすい」と感じる部分に関心が集中している様子が見られた。

### 5.2.3 日本人にしてほしい言語

日本人にどの言語で一番話してほしいですか？（日本語学習者のみ）

表12日本人にしてほしい言語

回答	日本語学習者（n=45）
普通の日本語	44.4%（20人）
状況による	26.7%（12人）
やさしい日本語	20.0%（9人）
英語	6.7%（3人）
自分の母語	2.2%（1人）

表12は、日本語学習者が日本人にどのような言語で話してほしいと考えているかを示している。最も多かったのは「普通の日本語」で、回答者全体の約44.4%（20人）を占めた。「状況による」（26.7%）、「やさしい日本語」（20.0%）がそれに続き、相手や場面に応じた使い分けを希望する傾向も確認された。また、「英語」（6.7%）、「自分の母語」（2.2%）といった回答も少数ながら存在し、日本語学習者の間に多様なコミュニケーションのニーズがあることがうかがえる。

### 5.2.4 言い換え問題

次の言葉を、やさしい日本語に言いかえてください。 在留期限 →（ ）

（日本人向け Q8 + 日本語学習者 Q7の比較）

表13言い換え問題

種類	日本人の回答（n=50）	日本語学習者の回答（n=33）
ひらがな化・表記の平易化	にほんにいられるじかん	
	にほんにいられるきげん	
	ここにいれるきかん	
会話表現・問いかけ型	にほんに いつまで いますか？	いつまで日本におる？
	この日までは住んで良いよ	日本にどのぐらいますか
	いつまでここにいられるか	
	日本にいつまでもいられますか	
比喩・イメージに置き換え	日本にいれるタイムリミット	ビザが切れる時
語彙の簡素化	くに に いる 制限	日本にいる時間
	日本にすることが出来る日にち	いつまでいられること
	とどまる期間	いつまで留められる

	日本に入れる時間	日本に住む時間
	日本にいれる期間	日本に住んでいる期間
	日本にいられるきかん	住む時間
	日本にいていい期間	日本にいる期間
	ビザの期限	日本にいられる期間
	日本にいられる日	日本に住める時間
	にほんに たいざいできる きかん	在留する期限
	日本にいれる時間	ある場所・国で住むできる期間
	滞在できる期間	いる期間
	日本にいる期間	ある場所に留まる期間
	日本にいられる期間	日本に居られる時間
	日本に居られる時間	ある場所に泊まる期間
	ここにいられる期間	住む許可時間
	VISA の期限	いるとき。
説明型（解説・定義風）	外国人が日本にすることができる最後の日です。	日本にいつまでいることができるか決まった日
	日本にすることができる期間	日本で生活期間
	日本に居ることができる期間	日本に住み初めて過ごした時間
	外国人が日本でとどまることができる期間の終わりの日	外国人が日本にすることができる最後の日
	外国人がいられる期間	このところで止まられる日
	外国人が日本にいられる最後の日	留学生が日本に住む、残りの期間
	日本にすることができるなくなる日	いつまで外国に住む予定だ。
	外国にすることができる決められた期間	日本に住むことができる期間のリミット
	ここにいてもいい長さ。	
	日本に残れる期間	
	日本にすることができる期間	
	あなたが日本に滞在できる日数	
	日本にいつまで住めるかの証明。	
	日本にすることができる可能な期限	
	にほんにあることができるきかん	
	あなたの日本にすることができる出来る期間	
	あなたが日本に居ることができる時間	
	日本にすることができるおわりの日	
	日本にすることができる時間	
	外国人が日本にいる期間	
外国の人が日本にいていい期間		
日本にすることができる最後の日		
その他	分からない	チェックイン
		半年

表13は、日本人回答者（n=50）と日本語学習者（n=33）による「在留期限」の言い換え表現を比較したものであることを示している。両者とも、在留期限という専門的な表現をそのまま使用せず、分かりやすい言葉に置きかえる傾向が見られた。

日本人回答では、「日本にいられる期間」「ビザの期限」といった、在留期限の意味をそ

のまま具体的に表現する回答が多くを占めた。「日本にしていることができる期限」や「日本に住んでいい日まで」など、制度やルールを意識した説明的な言い換えが多く、正確さを重視している様子が見られる。また、難解な漢字を避けて、ひらがな表記を用いる工夫も多く見られた。

一方、日本語学習者の回答では、「日本にしている期間」や「住む時間」など、日常生活に馴染みのある語彙を使ったシンプルな言い換えが多かった。さらに、「ビザが切れる時」「チェックイン」など、自身の経験に基づいた表現を選ぶ傾向も確認された。また、「いつまで日本におる？」といった会話調の回答も見られ、身近な言葉で意味を捉えようとする姿勢が表れている。

このように、表からは日本人は説明的・制度的な表現を選ぶ傾向が強く、日本語学習者は自身の理解を優先した実践的な表現を好む傾向が読み取れる。ただし、いずれのグループも「難しい言葉を避けて簡単にする」というやさしい日本語の基本方針に基づき、わかりやすさを意識して言い換えている点は共通している。

### 5.3 難易度に関する分析

#### 5.3.1 「やさしい日本語は難しいと感じるか」(日本人向け Q8+日本語学習者 Q7の比較)

表14 「やさしい日本語は難しいと感じるか」

回答	日本人 (n=50)	日本語学習 (n=45)	差 (%)
少し難しい	64.0% (32人)	24.4% (11人)	39.6%
とても難しい	20.0% (10人)	0.0% (0人)	20.0%
あまり難しくない	16.0% (8人)	37.8% (17人)	21.8%
全く難しくない	0.0% (0人)	37.8% (17人)	37.8%

表14は、「やさしい日本語は難しいと感じるか」について、日本人と日本語学習者の回答を比較したものであることを示している。日本人は「少し難しい」(64.0%)が最も多く、「とても難しい」(20.0%)を合わせると約8割がやさしい日本語を難しいと感じている。「あまり難しくない」と回答した人は16.0%にとどまり、「全く難しくない」と答えた人はいなかった。

一方、日本語学習者では「あまり難しくない」「全く難しくない」がそれぞれ37.8%を占め、肯定的な回答が多かった。「少し難しい」は24.4%で、割合としては少なく、日本人よりも、やさしい日本語を難しいとは感じていない傾向がある。

この結果から、日本人は表現の工夫や配慮に対して難しさを感じる傾向が強く、一方で日本語学習者は「受け取る側」としての理解のしやすさを評価していることが読み取れる。

### 5.4 やさしい日本語に対する意識と受け止め方に関する分析

#### 5.4.1 「外国人にやさしい日本語を使いたいか」(日本人回答のみ Q7)

表15 「外国人にやさしい日本語を使いたいか」

回答	日本人 (n=50)
はい	78.0% (39人)
状況による	20.0% (10人)
いいえ	2.0% (1人)

表15は、「外国人にやさしい日本語を使いたいか」に関する日本人回答者の傾向を示している。「はい」と回答した人が78.0%を占め、最も多かった。「状況による」は20.0%、「いいえ」は2.0%となった。やさしい日本語の使用に前向きな回答が大半を占めた一方で、場面ごとに使い分けを考える回答や、「使わない」とする回答も少数ながら見られた。

#### 5.4.2 「日本人にやさしい日本語で話された時の印象」(日本語学習者のみ Q5)

表16 「日本人にやさしい日本語で話された時の印象」

回答	日本語学習者 (n=45)
話がわかりやすくなる	71.1% (32人)
普通の日本語で話してほしい	15.6% (7人)
子どもの扱いをされていると感じる	6.7% (3人)
状況による	4.4% (2人)
特に何も感じない	2.2% (1人)

表16は、「日本人にやさしい日本語で話された時の印象」に関する日本語学習者の回答傾向を示している。最も多かったのは「話がわかりやすくなる」で、全体の約7割を占めた。次いで「普通の日本語で話してほしい」が15.6%、「子どもの扱いをされていると感じる」が6.7%であった。その他、「状況による」「特に何も感じない」とする回答も一部見られた。やさしい日本語に対する印象については、「理解のしやすさ」に関する回答が多くを占める一方で、その他の選択肢を選んだ回答者もあり、受け取り方には個人差があることがうかがえる。

#### 5.5 やさしい日本語の「必要性」と「有用性」に関する分析

##### 5.5.1 「外国人と接する時にやさしい日本語は役立つか」(日本人回答のみ Q6)

表17 「外国人と接する時にやさしい日本語は役立つか」

回答	日本人 (n=50)
とても役に立つと思う	60.0% (30人)
役に立つと思う	38.0% (19人)
あまり役に立たないと思う	2.0% (1人)

表17は、「外国人と接する時にやさしい日本語は役立つか」に関する日本人回答者の意識を示している。「とても役に立つと思う」と回答した人が60.0%で最も多く、「役に立つと思う」も含めると全体の98.0%がやさしい日本語に対して肯定的な評価を示した。「あまり役に立たないと思う」とする回答は2.0%にとどまり、やさしい日本語が外国人とのコミュニケーションにおいて有効であると考えられる傾向が明らかとなった。

##### 5.5.2 今の社会での必要性(自由記述)

やさしい日本語は今の社会でも役に立つと思いますか？(自由記述)

###### 1.) 日本人回答 Q10

やさしい日本語の有用性について、自由記述で寄せられた回答をまとめたものである。全体の約9割が「役に立つ」と答えており、多くの回答で「外国人との円滑なコミュニケーション」「子どもや高齢者にも伝わりやすい」「災害時に必要」といった意見が見られた。実際の回答には、以下のような具体的な声が挙げられた：

- 「外国人だけでなく子どもから高齢者までの幅広い人が理解できるから。」
- 「日本には世界中から多くの観光客が訪れています。住んでもらうためにも、やさしい日本語は大切になると思います。」
- 「これは日本人同士でも活用できると思う。」
- 「こどもや日本語初心者の方にも分かりやすいから。」
- 「難しい言葉や、単語、略語があると、混乱してしまうので、そういった部分をやさしい日本語として正しく分かりやすいように使うべきだと思います。」
- 「相手の語学力に合わせて伝わるように言い換えることは、どの言語や相手でも当たり前のことだと思います。」
- 「日本語を使って生活する非日本語母語話者が増えているのでその人たちに使えるのはもちろん、母語話者にとってもわかりやすいし、誤解が生じにくい言葉だと思います。もっと広まればいいなと思っています。」

一方で、「英語の勉強すればいいと思う」「相手がどんな日本語を知っているのかを知る必要があると思う」など、慎重な意見や、「難しい話をする時にどう言えばいいのだろうと困惑してしまう」といった具体的な課題を指摘する声も見られた。

## 2.) 日本語学習者回答 Q9

日本語学習者が「やさしい日本語」の有用性について回答した自由記述の結果をまとめたものである。多くの回答者が「役に立つ」と答え、その理由として「外国人にとってわかりやすい」「日本人とのコミュニケーションがしやすくなる」「生活が便利になる」などが挙げられた。

実際の回答には、次のような意見が見られた：

- 「日本に住んでる外国の方の中、日本語が不自由な方が少なくないと思うので、やさしい日本語の普及化が必要となる」
- 「日本語が読めない外国人（特に漢字を使わない国から来た人）は多いですから」
- 「在日外国人の生活が便利になると思います」
- 「外国人が日本人とコミュニケーションできるために必要」
- 「日本語を使う外国人さえにとって、普通の日本語はときどき理解にくだけど、簡単な言葉を使って、簡単になったら良いことだと思います」
- 「外国人ならどんなに日本語が上手でも、日本語がわからない時もあるので、勘違いはないようにやさしい日本語を使ったらいいなと思います」

また、災害時や緊急時の対応において有効だとする意見も多く、「緊急時に『やさしい日本語』で書かれた指示があれば、日本に住んでいる外国人の方も、何をすればいいのかわかる」といった具体的な例が挙げられた。さらに、「子どもでも理解できて、そばに大人がいなくても通じる」「日本語が母語の人も、やさしい日本語を使うことでプレゼンテーションスキルが向上できる」といった、日本人にとっての利点を指摘する声もあった。

## 6. 終わりに

本研究では、「やさしい日本語」に関する認知度、理解度、接触経験、使用の難易度という4つの視点から、日本人と日本語学習者を比較した。その結果、日本語学習者の方が「やさしい日本語」についての認知が高く、わかりやすいと感じている人も多かった。一方、日本人は「やさしい日本語」の存在を知っていても、実際に使う際には言い換えや相手への配慮を難しく感じる人が多いことがわかった。また、和歌山大学の防災ハンドブックのように、やさしい日本語を活用した具体的な取り組みが地方でも進められており、やさしい日本語が多文化共生社会を支える大切な役割を果たしていることも確認できた。

やさしい日本語は、たとえ言葉や文化が異なっても、人と人との心を通わせ、お互いに理解し合おうとする思いから生まれたものであり、言葉の違いは必ずしも越えられない壁ではないと考えられる。今後、本研究がやさしい日本語の理解や活用の一助となることを願っている。

(以上、14053字)

## 参考文献

- 1) 出入国在留管理庁『在留外国人統計（令和6年末現在）』（2024）[オンライン]  
[https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/14\\_00015.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/14_00015.html)（参照2025/6/25）
- 2) 庵功雄『災害と「やさしい日本語」—その可能性と限界』（2003）『言語文化教育研究』第1巻、明治学院大学
- 3) 文化庁『「やさしい日本語」作成のための手引き』（2022）  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka\\_gyosei/kokugo\\_nihongo/yasashii\\_nihongo/](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/kokugo_nihongo/yasashii_nihongo/)（参照 2025/4/21）
- 4) 庵 功雄（2014）『「やさしい日本語」研究の現状と今後の課題』『一橋日本語教育研究』第2号， pp.1-12 [オンライン] <https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/hermes/ir/re/27981/jle0000200010.pdf>（参照 2025/5/21）
- 5) 小池博美『母語話者はどのように「やさしい日本語」を作るのか—非母語話者と接触機会の少ない母語話者からの発信の可能性—』（2021）桜美林大学大学院修士論文要旨（言語教育研究科日本語教育専攻）[オンライン]  
[https://www.obirin.ac.jp/academics/postgraduate/language\\_education/course\\_japanese/papers\\_masters/r11i8i000008kdlk-att/219J3006.pdf](https://www.obirin.ac.jp/academics/postgraduate/language_education/course_japanese/papers_masters/r11i8i000008kdlk-att/219J3006.pdf)（参照 2025/5/20）
- 6) 出入国在留管理庁『やさしい日本語の手引き』（2022）[オンライン]  
<https://www.moj.go.jp/isa/content/930005563.pdf>（参照 2025/5/20）
- 7) 出入国在留管理庁『在留外国人統計（令和5年末現在）』（2023）  
[https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/statistics/toukei\\_ichiran.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/materials/statistics/toukei_ichiran.html)（参照 2025/5/20）
- 8) 庵功雄『災害と「やさしい日本語」—その可能性と限界』（2003）『言語文化教育研究』第1巻、明治学院大学

9) 庵功雄『やさしい日本語——多文化共生社会へ』(2016) 岩波新書

10) 文化庁『「やさしい日本語」作成のための手引き』(2022)

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka\\_gyosei/kokugo\\_nihongo/yasashii\\_nihongo/](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/kokugo_nihongo/yasashii_nihongo/)

11) 出入国在留管理庁『やさしい日本語ガイドライン』(2022)

<https://www.moj.go.jp/isa/content/930005563.pdf>

12) 東京都生活文化局『日本人患者対応にも役立つ「やさしい日本語」』(2020)

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/12/11/10.html>

(参照 2025/5/20)

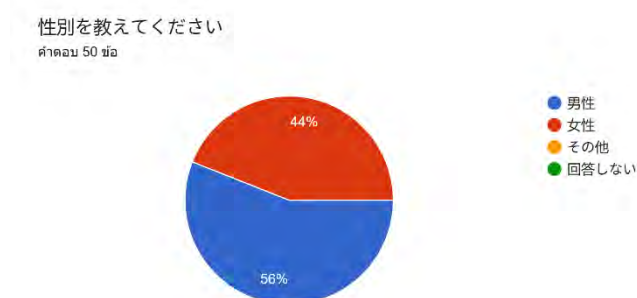
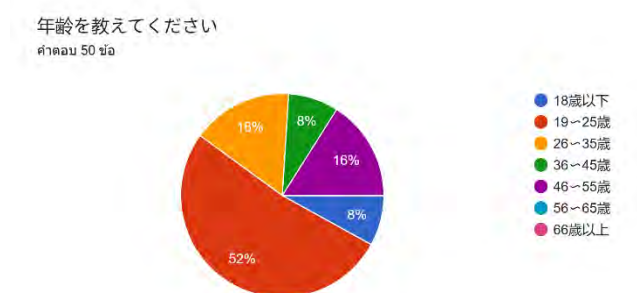
13) 和歌山大学『留学生と日本人学生のやさしい日本語防災ハンドブック』(2021)

<https://www.wakayama-u.ac.jp/kii->

[plus/news/2021031900013/file\\_contents/gakunai2.pdf](plus/news/2021031900013/file_contents/gakunai2.pdf) (参照 2025/6/20)

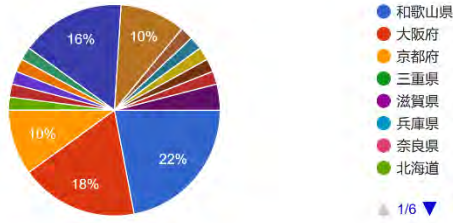
## アンケートの内容：

### 日本人対象に



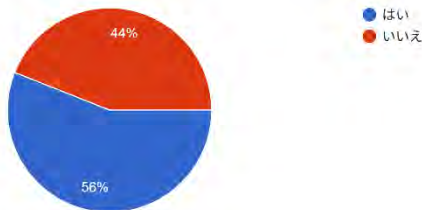
お住まいの都道府県をお選びください

คำตอบ 50 ข้อ



1. 「やさしい日本語」という言葉を聞いたことがありますか

คำตอบ 50 ข้อ



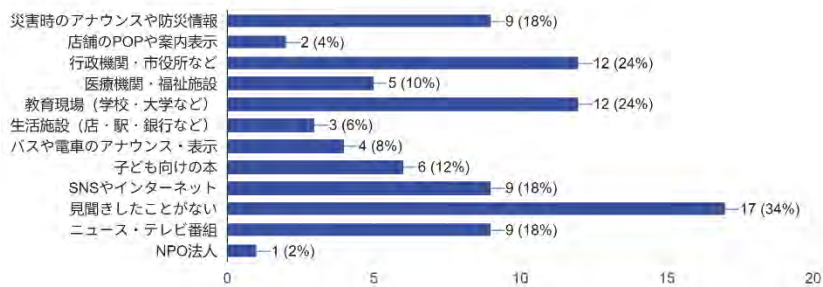
2. 「やさしい日本語」という言葉を、専門用語 (...などで使われる特定の用語) として知っていますか

คำตอบ 50 ข้อ



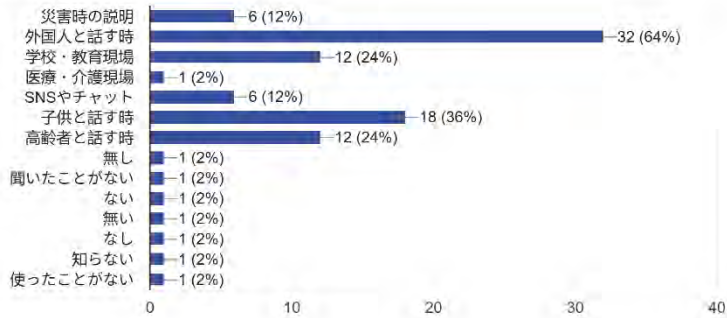
3. 「やさしい日本語」をどこで見たり聞いたりしたことがありますか

คำตอบ 50 ข้อ



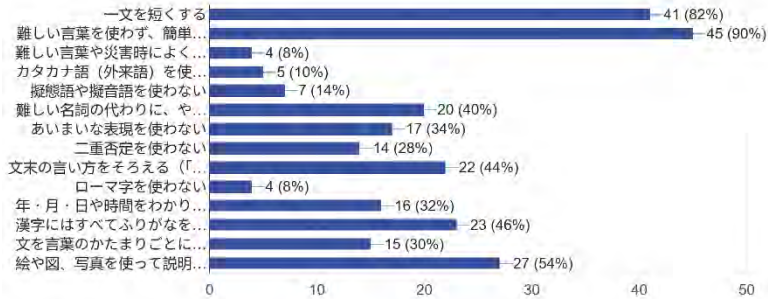
4. 「やさしい日本語」を実際に使ったことがありますか

คำตอบ 50 ข้อ



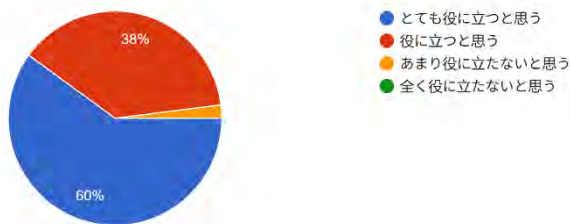
5. 以下の「やさしい日本語」の14のルールの中で...できそうだと思うものにチェックを入れてください

คำตอบ 50 ข้อ



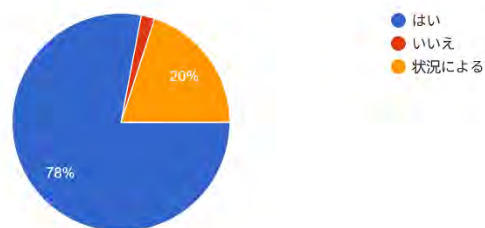
6. 「やさしい日本語」は外国人と接する場面で役立つと思いますか

คำตอบ 50 ข้อ



7. 「やさしい日本語」を外国人に対して使いたいと思いますか

คำตอบ 50 ข้อ



8. 次の言葉を、やさしい日本語に言いかえてください。在留期限 → ( )

คำตอบ 50 ข้อ

日本にいれるタイムリミット

外国の人が日本にいていい期間

日本にいられる期限

とどまる期間

日本に居られる時間

日本にいたることが出来る日にち

いつまでここにいられるか

外国人が日本にいる期限

外国にいたることができると決められた期間

にほんにいられるじかん

日本にいつまで住めるかの証明。

滞在できる期間

ビザの期限

あなたが日本に滞在できる日数

にほんにたいざいできる きかん

日本にいたることができるおわりの日

日本にいれる期間

外国人が日本でとどまることができる期間の終わりの日

あなたが日本に居ることができる時間

ここにいれるきかん

あなたの日本にいたることが出来る期間

にほん に あることができる きかん

日本にいたることが可能な期限

日本に入れる時間

日本にいれるタイムリミット

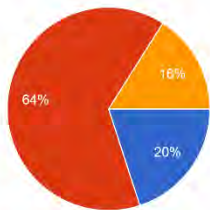
外国の人が日本にいていい期間

日本にいられる期限

とどまる期間
日本に居られる時間
日本にいたることが出来る日にち
いつまでここにいられるか
外国人が日本にいる期限
外国にいたることができると決められた期間
日本に残れる期間
日本にいたることができる時間
日本にいれる時間
ここにいてもいい長さ。
日本に居ることができる期限
日本にいつまでもいられますか
日本にいられる日
外国人が日本にいたることができる最後の日です。
くに に いる 制限
外国人がいられる期間
外国人が日本にいられる最後の日
日本にいたることができなくなる日
日本にいたることができる期間
にほんに いつまで います。(いますか?)
ここにいられる期間
にほんにいられるきげん

9. 「やさしい日本語」は使うのが難しいと感じますか。

คำตอบ 50 คน



- とても難しい
- 少し難しい
- あまり難しくない
- 全く難しくない

10. 「やさしい日本語」は、今の社会でも役に立つと思いますか？理由があれば書いてください。

คำตอบ 39 บั

役立つ！

役立つ。敬語は接客サービスの一環だと思うが、時には煩わしいので、程よいものにするべき

こども、外国人、お年寄りだけでなく、日本に住む人全員が理解できるような言葉だから。

外国人だけでなく子どもから高齢者までの幅広い人が理解できるから。

知らなかったんでこれから調べていきます

わからない

こどもや日本語初心者の方にも分かりやすいから

日本には世界中から多くの観光客が訪れています。そこで、日本を沢山知ってもらうため、もしくは、住んでもらうためにも、やさしい日本語は大切になると思います。  
難しい言葉や、単語、略語があると、混乱してしまうので、そういった部分をやさしい日本語として正しく分かりやすいように使うべきだと思います。

外国人と接する時には意識をする必要はあると思います。長く住んでいる外国の方でも分からない単語や言葉があると思うのでやさしい日本語を使っていれば誰でもわかりやすく会話ができると思います。

これは日本人同士でも活用できると思う。

自分が理解していることを相手も理解しているとは限らない。それを言葉ではわかっている、その実、完全に理解できている人はいない。

「やさしい日本語」=「ハードルを下げた言葉遣い」とも言い換えることが出来ると思う。

つまり誰かに何かを説明する場面などで相手により良く理解してもらえる場合に活用できるだろう。

長期（留学よりも長い期間）で日本に在留する外国人の数が増えているから、役に立つと思います。

日本人同士のコミュニケーションでも、正しく伝わらない表現や、発達障害、認知障害等々の理由で理解が困難な場合はあり、そういった場面で有効だと思います。

また平易な日本語を正しく用いることで、日本語の良さを理解してもらいやすくなると思います。

はい。

日本語を深く理解していない、海外の人に向けて役に立つと思う。

簡単な日本語を使うことで、コミュニケーションを円滑にする役割があると思う。

インバウンド、子ども、お年寄りより良いコミュニケーションを取ることができる。

ネットが発達した現代では、当たり前に使われている用語等でも高齢者などには通じない場合があるのでわかりやすく、かつ簡潔に伝えることはとても役に立つと思いました。

これから外国の方ももっと増えてくると考えられる中で、日常生活はもちろん災害時にも、必要になってくるものだと思う。

日本人の目線では、どんな日本語が海外の方が分かりやすいのか、想像しづらいです。

相手の語学力に合わせて伝えるように言い換えることは、どの言語や相手でも当たり前のことだと思います。

高齢者や海外の方の聞き間違いや勘違いを防げると思う

グローバルが進みより良い社会になると思える

英語の勉強すればいいと思う

役に立つと思うが、相手がどんな日本語を知っているのかを知る必要があると思う。

日本には旅行、留学、移住などたくさん外国人がいる。日本は自然災害も多いので必要だと思う。

思う

もっと上手く外国人と交流できる

役に立つと思う。子供から大人まで誰でも理解できるので伝えたいことが伝わりやすいから。

難しい表現を誰でもわかる言葉に直すことは日本人にとっても言葉をより深く理解するきっかけとなるが、最近では日本人の国語力が衰えてきて、なんでもかんでもカタカナ言葉や外来語にしてしまう風潮に疑問を感じている

役に立つと思う。  
海外の人とコミュニケーションを取ることができるから

簡単に伝えることの重要性。

誰にでもわかるように表現することで、わからないことで悩む人が減ればいいと思います

私自身が外国に住んでいたときは、現地の人が分かりやすく短い単語で対応してくれる人がいて、とても助かった記憶がある。そして人に優しくされるとその国の人々の印象も良くなることや、苦手意識を持たないことで学ぶ意欲を失わずにすむ。結果として日本の社会的地位が高まる可能性や、外国人を受け入れる土壌が広がるのではと考えている。

日本語を使って生活する非日本語母語話者が増えているのでその人たちに使えるのはもちろん、母語話者にとってもわかりやすいし、誤解が生じにくい言葉だと思います。もっと広まればいいなと思っています。

いろんな外国の人が日本に来るから

役立つと思います

役に立つとは思いますが。

日本語が少しわかる外国人との会話ではやさしい日本語(というより私的には簡単な日本語という認識ですが.....)を使っていかないと、会話することが困難ではないかと思えます。

ただ、難しい話をする時にどう言えばいいのだろうと困惑してしまう事もあるので、何かこの場合はという教本みたいなのがあったら(存在していたのであれば宣伝が欲しいですね.....)良いなと思いました。

はい。ビジネスメールなどで、伝えたいことを簡潔に表現することができると思います。

日本語母語話者で、外国語の知識がない人にとって、「やさしい日本語」を使用することで、外国の人とコミュニケーションをしやすくなると思う。一方で、英語の知識がある人は英語で伝える方がよりコミュニケーションはしやすいと考える。また、カタカナ語については英語由来のものが多いため、発音や文脈、ジェスチャー次第では伝わりやすい場合もあるため、私は多く使用する。

また、日本語学習者の中には「やさしい日本語」で話されるのを嫌う人もいると聞いたことがある。さらには、外見のみで、この人は日本語が話せないであろうから、初めから「やさしい日本語」を使用するのも問題であろう。

一方で、日本語教育現場では非常に効果的なコミュニケーションツールであると考えている。日本語母語話者の子供や日本語学習者に日本語を教えるという目的であれば非常に有意義なものであると日本語教師として実感している。

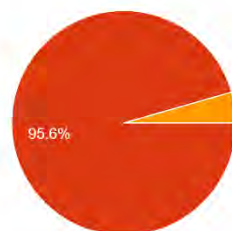
ネット交流が増える近年、やさしい日本語の方が目で見ても好印象だと思います！

文語や日常で使わない言葉を、理解しやすい言葉に置き換えるだけで、幅広い年齢や国籍の方が理解しやすいと思います。

## 日本語学習者対象

年齢を教えてください

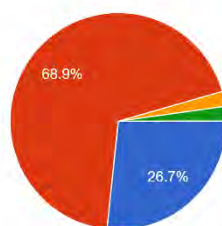
คำถาม 45 ข้อ



- 18歳以下
- 19~25歳
- 26~35歳
- 36~45歳
- 46~55歳
- 56~65歳
- 66歳以上

性別を教えてください

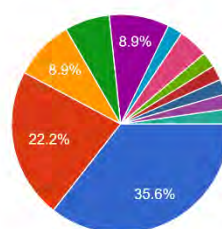
คำถาม 45 ข้อ



- 男性
- 女性
- 回答しない
- ゲイ

国を教えてください

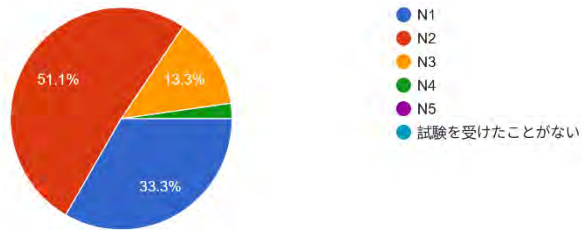
คำถาม 45 ข้อ



- タイ
  - ベトナム
  - 中国
  - インドネシア
  - 韓国
  - ラオス
  - マレーシア
  - ペラルーシ
- ▲ 1/2 ▼

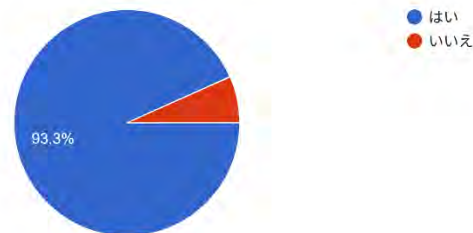
JLPTレベルを教えてください

คำตอบ 45 ข้อ



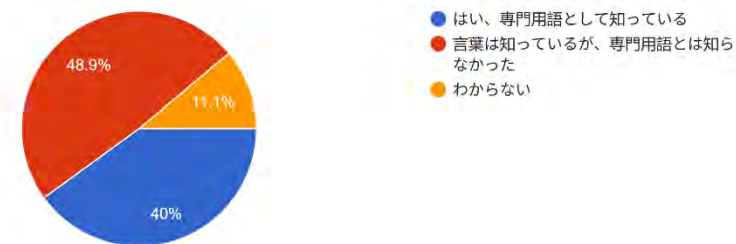
1. 「やさしい日本語」という言葉を聞いたことがありますか

คำตอบ 45 ข้อ



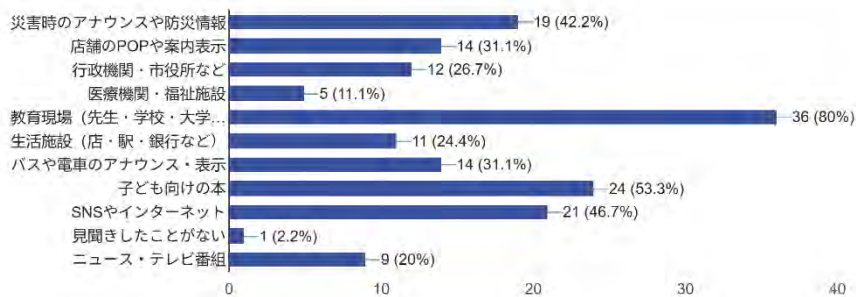
2. 「やさしい日本語」という言葉を、専門用語 (...などで使われる特定の用語) として知っていますか

คำตอบ 45 ข้อ



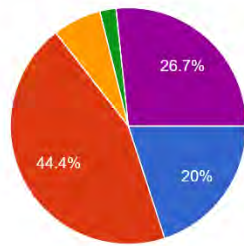
3. 「やさしい日本語」をどこで見たり聞いたりしたことがありますか。

คำตอบ 45 ข้อ



4.日本人にどの言語で一番話してほしいですか

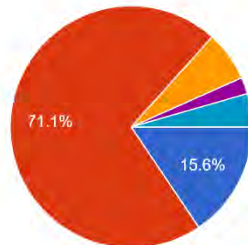
คำตอบ 45 ข้อ



- やさしい日本語
- 普通の日本語
- 英語
- 自分の母語
- 状況による

5.日本人が「やさしい日本語」で話してくれると、どう感じますか

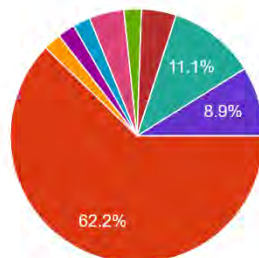
คำตอบ 45 ข้อ



- 普通で日本語で話してほしい
- 話がわかりやすくなる
- 子ども扱いされていると感じる
- 逆にわかりにくい
- 特に何も感じない
- 状況による

6.これはやさしい日本語のルールです。あなたにとって、どのルールが一番役に立つと思いますか

คำตอบ 45 ข้อ



- 一文を短くする
- 難しい言葉を使わず、簡単な言葉にする
- 難しい言葉や災害時によく使われる言...
- カタカナ語 (外来語) を使わない
- 擬態語や擬音語を使わない
- 難しい名詞の代わりに、やさしい動詞...
- あいまいな表現を使わない
- 二重否定を使わない

▲ 1/2 ▼

7次の言葉を、やさしい日本語に言いかえてください。わからないときは、こたえなくてもいいです。在留期限 → ( )

คำตอบ 33 ข้อ

住む時間

日本にいる期間

日本にどのくらいいますか

日本に住める時間

日本に住むことができる期間のリミット

ある場所・国で住むできる期間

ある場所に留まる期間

日本にいつまでいることができるか決まった日

いつまで日本におる？

在留する期限

半年

いる期間

日本にいられる期間

日本で生活期間

日本にいる時間

このところで止まれる日

日本に住んでいる期間

いつまで外国に住む予定だ。

留学生が日本に住む、残りの期間

住む許可時間

外国人が日本にいてることができる最後の日

日本に住み初めて過ごした時間

いるとき。

日本に住む時間

ビザが切れる時

チェックイン

ある場所に泊まる期間

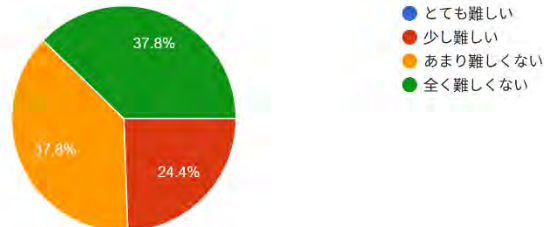
いつまで留められる

日本に住んでいる長さ

いつまでいられること

### 8. 「やさしい日本語」は難しいと感じますか

คำตอบ 45 ข้อ



### 9. 「やさしい日本語」は、今の社会でも役に立つと思いますか？理由があれば書いてください

คำตอบ 36 ข้อ

はい

結構役に立てると思われる。現代の日本は外国人・観光客が増えて、上級日本語もが出来ない人もいる。防災のため簡単で分かる日本語も必要である。

役に立つと思う。日本に住んでる外国の方の中、日本語が不自由な方が少なくないと思うので、やさしい日本語の普及が必要となる。

役に立ちます。今はN3さえ持っていない外国人労働者や彼らの家族も日本に住んで、初級レベルの日本語でも日本で生活できるのは望ましい。

今の日本には外国人が多く、日本語のほうに分かる人もいます。だから、やさしい日本語を使えば、伝えやすくなると思います。

外国人にとってわかりやすい

もちろんです。

外国人として初めて日本に行く人たちに役に立つと思います。

役に立つと思います。日本に住んでいる外国人とか日本語がちょっとわかる人とかもいるから、誤解しないようにやさしい日本語が必要です。

役に立つと思います。日本語が読めない外国人(特に漢字を使わない国から来た人)は多いですから。

役に立つと思います。外国人にとってわかりやすいです。

会話できるんだから

はい、役に立つと思います。外国人にとって情報がわかりやすくなり、社会と関わりやすくなるからです。

在日外国人の生活が便利になると思います。

役に立つと思います

役に立つと思います！

例えば、緊急時に「やさしい日本語」で書かれた指示があれば、日本に仕込んでいる外国人の方も、何をすればいいのかかわかると思います。

はい、役に立つと思います。近年来日する外国人が増えてきています。その外国人の中で日本語や日本語の会話にまだ慣れていない方が多くいると思います。そのため、外国人はもっと早く新しい生活に慣れるため、やさしい日本語が必要だと思えます。

今役に立つと思います

現在にも、子供たちと外国人にとって役に立つと思う

役に立つと思う。「やさしい日本語」があるから、日本にいる外国人と日本人との間のコミュニケーションが順調に進むことができる。

役に立つと思います。生活しやすくさせるからです。

役立つかな～日本語にまだ明るくない人にとってめっちゃわかりやすいかも！

現在日本に来る外国人の数がますます増えていますが、日本語が全部理解できるわけではないです。彼らが円滑に生活するため、日本人とコミュニケーションできるため、「やさしい日本語」は役に立つと思います。

旅行のイメージ表現している。

はい、やくにたてるとおもいます

日本には外国人がどんどんふえているからです

専門用語が難しいから、わかりやすい言葉を代わりに使って役に立つと思います。

役に立つと思う。

理由:

- ① 子どもでも理解できて、そばに大人がいなくても通じる。
- ② 日本に住む外国人がどんどん増えている中で、助けになる。
- ③ 日本語が母語の人も、やさしい日本語を使うことでプレゼンテーションスキルが向上できる

役に立つと思います。外国人にとって分かりやすい。

役に立つと思います。日本語を使う外国人さえにとって、普通の日本語はときどき理解にくだけど、簡単な言葉を使って、簡単になったら良いことだと思います。

外国人は難しい日本語が分からないかもしれませんから、役に立つと思います。

日本語を勉強しはじめたばかりの外国人が、相手の日本語を簡単に理解できます。

日本語を勉強し始めた方には役に立つと思います。

はい、緊急の情報には役に立つと思う

役に立つと思います。なぜなら、外国人ならどんなに日本語が上手でも、日本語がわからない時もあるので、勘違いはないようにやさしい日本語を使ったらいいと思います。



2025年度  
日本語・日本文化研修留学生  
研究発表会

日時：2025年8月1日（金）13.10～16.30






（場所）





教室：「E1-203」  
ZOOM ID：810 0714 3626  
PASSWORD：032959

和歌山大学留学生による研究発表会をハイブリッド式（対面・zoom）にて開催いたします。日本語・日本文化研修留学生7名が1年の留学を通して研究した内容を発表いたします。

国籍・発表者・テーマ

-  レレン  
『コーヒーが冷めないうちに』における共感覚的比喩表現の考察
-  アナスタシア  
武士の精神
-  ハー  
生け花 - 日越文化の架け橋

国籍・発表者・テーマ

-  サイコーン  
ラオスと日本の文化比較ーピーマイとお正月、ブン・カオサラックとお盆、ブン・バンファイと龍勢祭を中心にー
-  ロン  
会話におけるメタファー表現の利用実態考察に関する考察と教育への応用ー和歌山大学の日本人学生と留学生を中心にー
-  ランガ  
『また同じ夢を見ていた』ー直喩表現における主人公の人生観ー
-  ファーイ  
専門的用語としての「やさしい日本語」の認知・理解・使用の難しさに関する比較調査ー日本人と日本語学習者の視点からー

COME ONE

COME ALL

## 2024-2025 年度 日本語・日本文化研修留学生

◆ 指導教員：長友 文子（ナガトモ アヤコ）

◆ 留学期間：2024.10～2025.9

◆ 氏名・国籍

☆ カルレン・フェリシア：インドネシア

☆ シャリツカヤ・アナスタシア：ベラルーシ

☆ グエン・テイ・ハイ・ハー：ベトナム

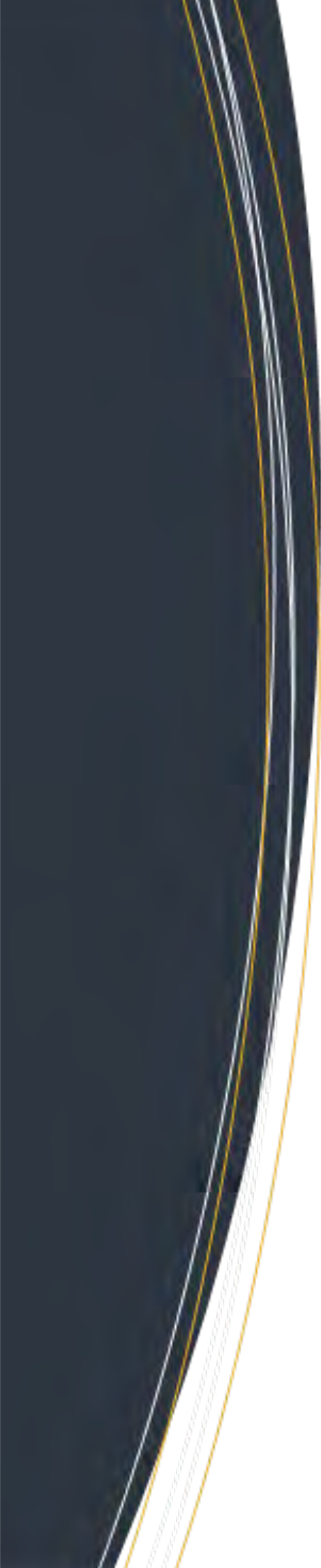
☆ ポツムビジット・サイコーン：ラオス

☆ ダン・タイン・ロン：ベトナム

☆ ランガジュノアジクレスワント：インドネシア

☆ トーンレックウィパーウィー：タイ





2025年度  
日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集  
2025年9月1日発行  
編集・発行

和歌山大学 国際イニシアティブ基幹 日本学教育研究センター  
〒640-8510 和歌山市栄谷 930  
TEL: 073-457-7524  
FAX: 073-457-7886